

平成28年度

全国学力・学習状況調査結果の分析

「授業の改善」「学力と学習状況との相関」等

平成28年11月

四日市市教育委員会

目 次

1	全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移	p 1
2	教科別 正答数分布グラフ	p 3
3	校種・教科別 調査結果概要	p 7
4	調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例	
	・ 小学校 国語、算数	p 11
	・ 中学校 国語、数学	p 15
5	各質問紙の調査結果からみえてくること	
	(1) 児童・生徒質問紙の4年間の経年変化及び学力の相関	p 17
	(2) 児童・生徒質問紙と学校質問紙の比較	p 37
	(3) 学校質問紙の4年間の経年変化と回答状況	p 38
	(4) 学力向上に関する全市的な取り組み状況	p 44
	(5) 各質問紙の回答からみえてくる課題とその対応	p 47
6	今後の取り組みの重点	p 49
7	参考資料	p 52

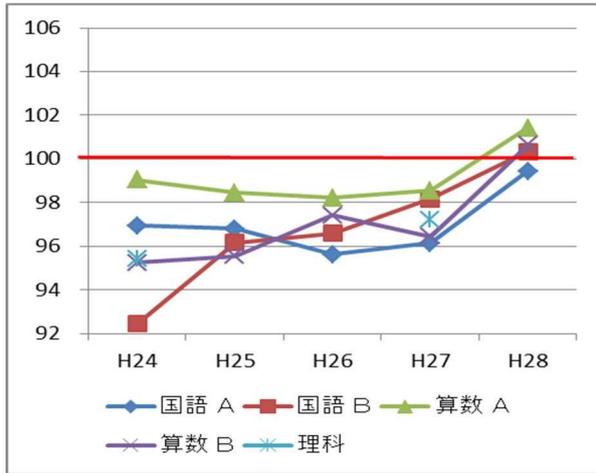
1 全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移 (H24～)

小学校		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成24年度	本市	79.1	51.4	72.6	56.1	58.1
	三重県	79.6	52.7	72.2	56.8	58
	全国(公立)	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
平成25年度	本市	60.7	47.5	76	55.8	
	三重県	60.3	46.7	75.8	55.3	
	全国(公立)	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度	本市	69.7	53.6	76.7	56.7	
	三重県	69.6	52.5	76.2	56	
	全国(公立)	72.9	55.5	78.1	58.2	
平成27年度	本市	67.3	64.2	74.1	43.4	59.1
	三重県	68	65.3	74.8	44.1	59.2
	全国(公立)	70	65.4	75.2	45	60.8
平成28年度	本市	72.5	58	78.7	47.5	
	三重県	71.7	58.1	78.3	47.1	
	全国(公立)	72.9	57.8	77.6	47.2	

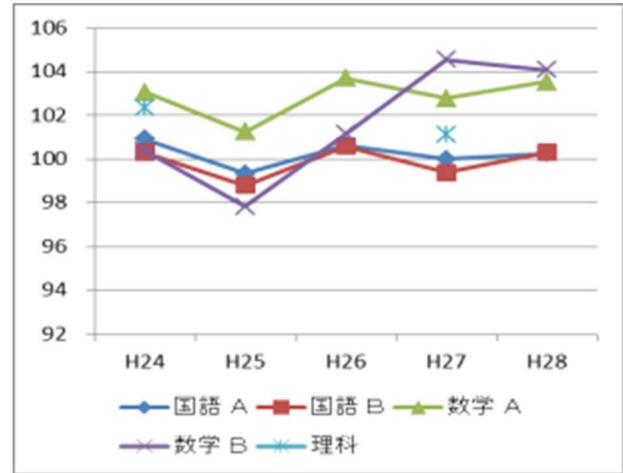
中学校		国語		数学		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成24年度	本市	75.8	63.5	64	49.5	52.2
	三重県	74	61.1	61.6	48	50.6
	全国(公立)	75.1	63.3	62.1	49.3	51
平成25年度	本市	75.9	66.6	64.5	40.6	
	三重県	75	65.8	63.2	39.3	
	全国(公立)	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成26年度	本市	79.9	51.3	69.9	60.5	
	三重県	78	49	67.1	58.3	
	全国(公立)	79.4	51	67.4	59.8	
平成27年度	本市	75.8	65.4	66.2	43.5	53.6
	三重県	75	64.3	64.3	40.6	51.9
	全国(公立)	75.8	65.8	64.4	41.6	53
平成28年度	本市	75.8	66.7	64.4	45.9	
	三重県	74.4	64.3	62.2	43.2	
	全国(公立)	75.6	66.5	62.2	44.1	

○ 各教科別調査結果から（全国を100としたときの本市結果の経年変化）

小学校

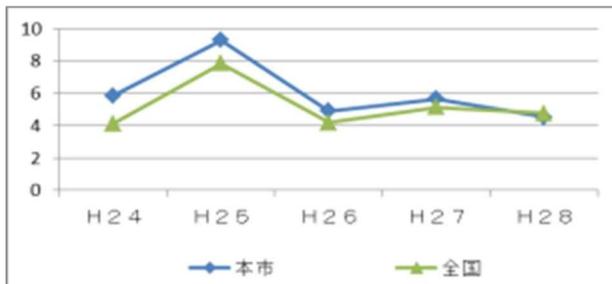


中学校

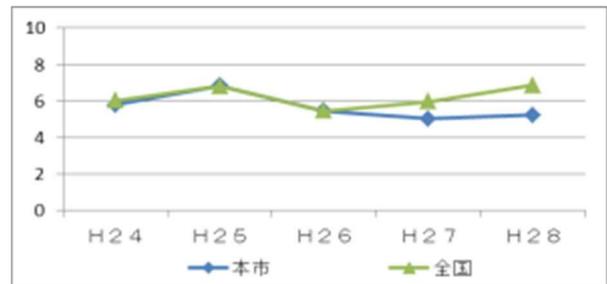


○ 無解答率の経年変化（各教科の無解答率の平均） ※理科は除く

小学校



中学校



<小学校>

国語Aは0.4ポイント全国平均正答率を下回ったが、それ以外の教科については、初めて全国平均正答率を上回った。この5年間、国語Aも含めて、年々、全国平均正答率との差が縮まってきている。

無解答率については、全国の平均無解答率との差が縮まり、平成28年度は全国よりも無解答率が低い。あきらめずに最後まで取り組む子どもたちの姿がうかがえる。

<中学校>

すべての教科で全国平均正答率を上回っている。特に、数学A・Bともに、全国平均正答率より約2ポイント高い。

平成28年度の中学3年生の結果を、同じ調査対象である小学校6年生時（平成25年度）の結果と比較すると、全国平均正答率を100とした場合、国語A・Bで約4%、算数・数学A・Bで約7%上昇しており、小学6年生からの3年間で、課題の改善が図られている。

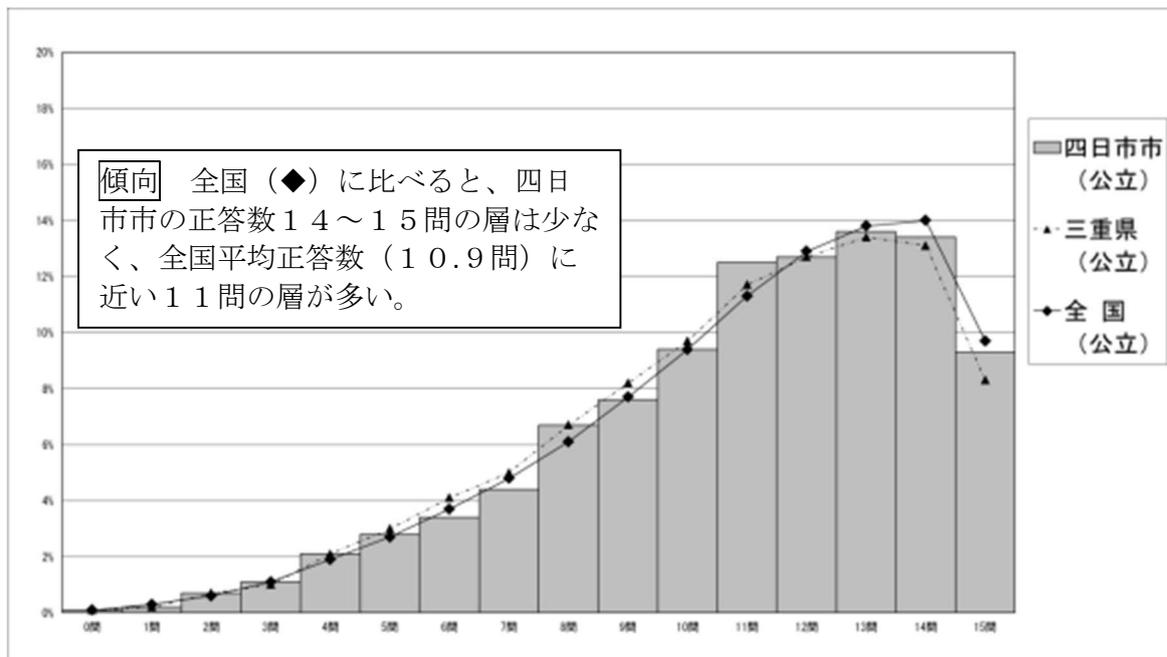
無解答率については、年々低くなってきており、平成28年度は全国と比べて約2ポイント低い。

2 教科別 正答数分布グラフ (小学校)

国語A

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,668	10.9 /15	72.5	11.0	3.1
三重県(公立)	15,633	10.8 /15	71.7	11.0	3.1
全国(公立)	1,021,905	10.9 /15	72.9	12.0	3.1

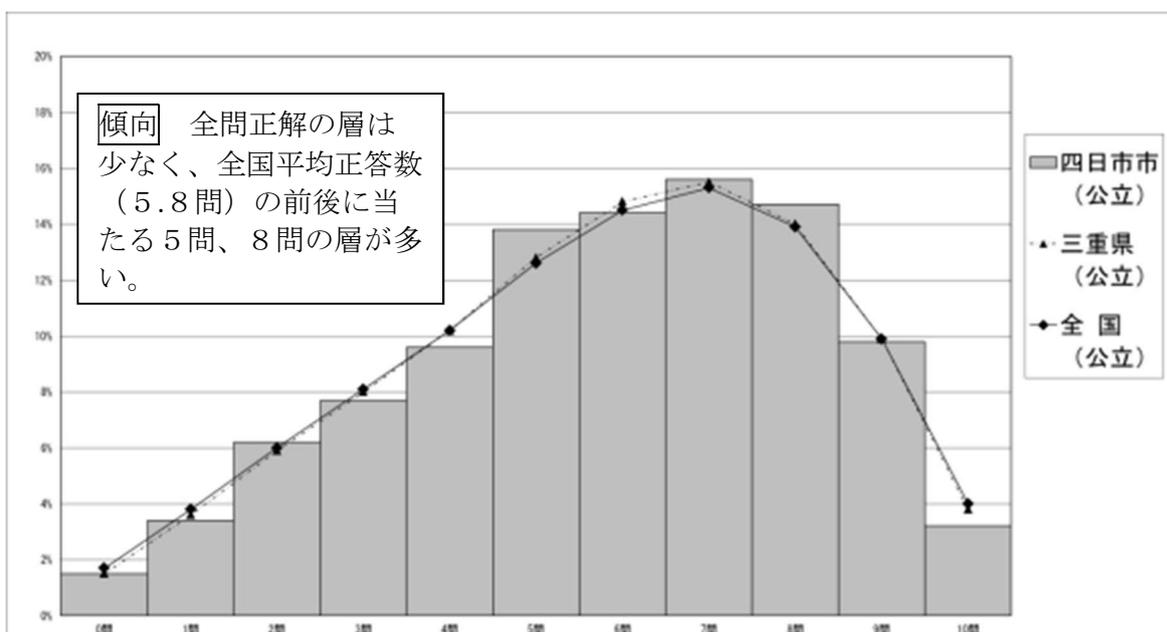
(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))



国語B

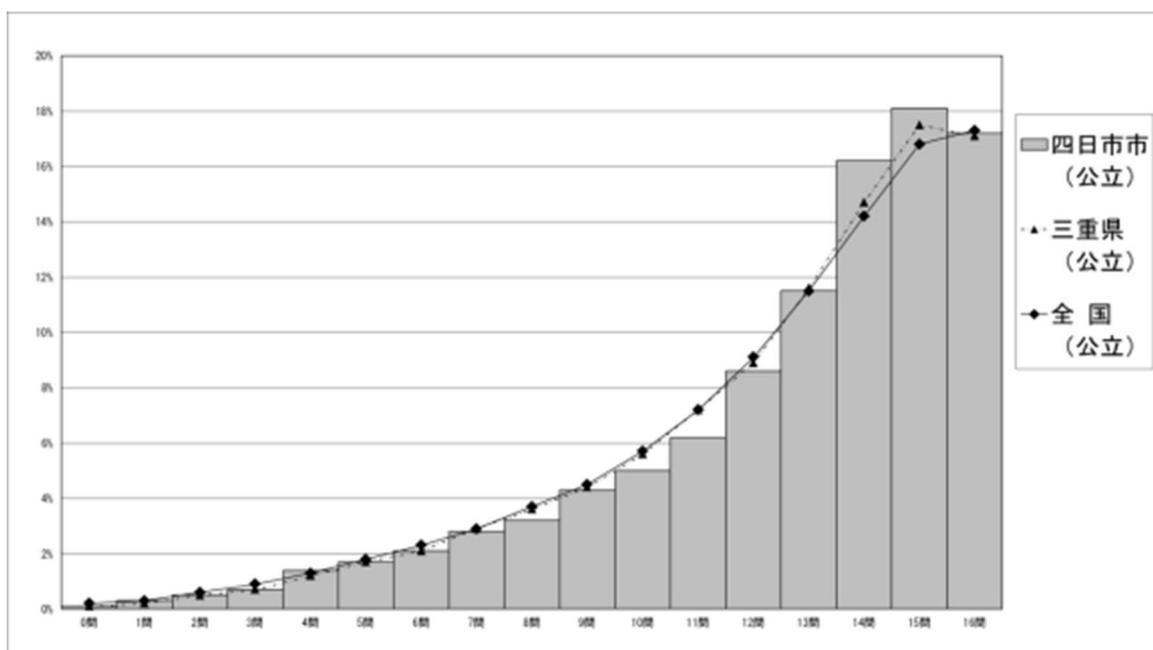
	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,668	5.8 /10	58.0	6.0	2.4
三重県(公立)	15,623	5.8 /10	58.1	6.0	2.4
全国(公立)	1,021,635	5.8 /10	57.8	6.0	2.4

(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))



算数A

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,668	12.6 /16	78.7	14.0	3.3
三重県 (公立)	15,631	12.5 /16	78.3	13.0	3.3
全国 (公立)	1,021,910	12.4 /16	77.6	13.0	3.4



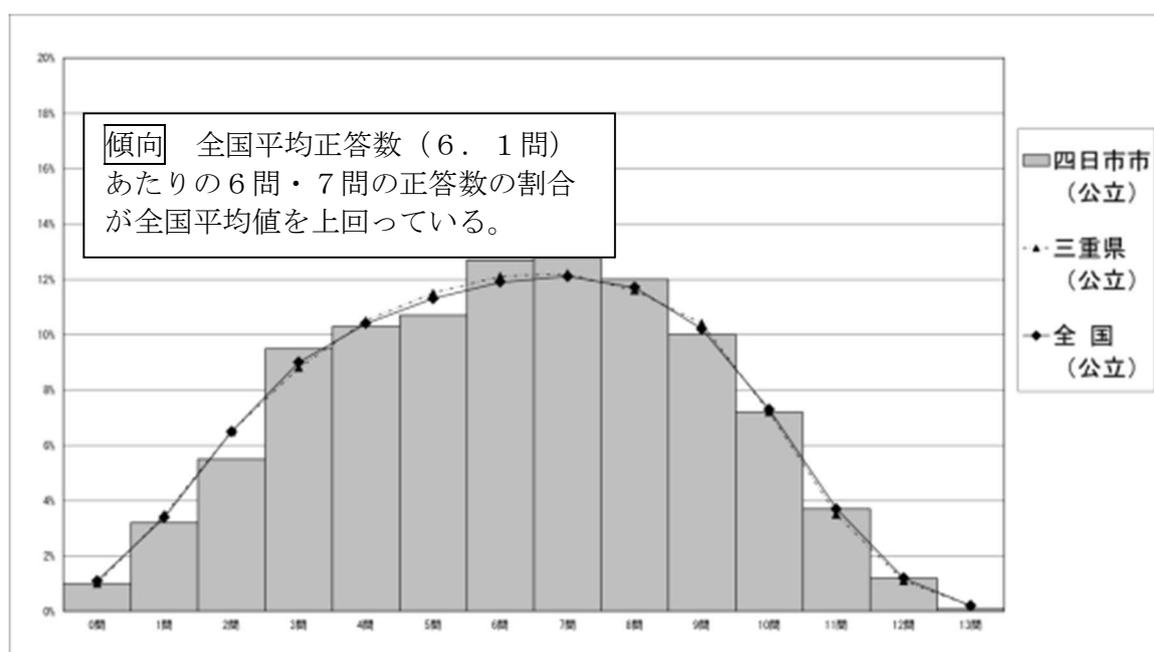
(横軸：正答数 (問) 、縦軸：割合 (%))

傾向 14問・15問正答の割合は全国値を上回っている。ただし正答数9問以下の割合は全国値とほぼ同じである。

算数B

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,667	6.2 / 13	47.5	6.0	2.7
三重県 (公立)	15,619	6.1 / 13	47.1	6.0	2.8
全国 (公立)	1,021,637	6.1 / 13	47.2	6.0	2.8

(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))

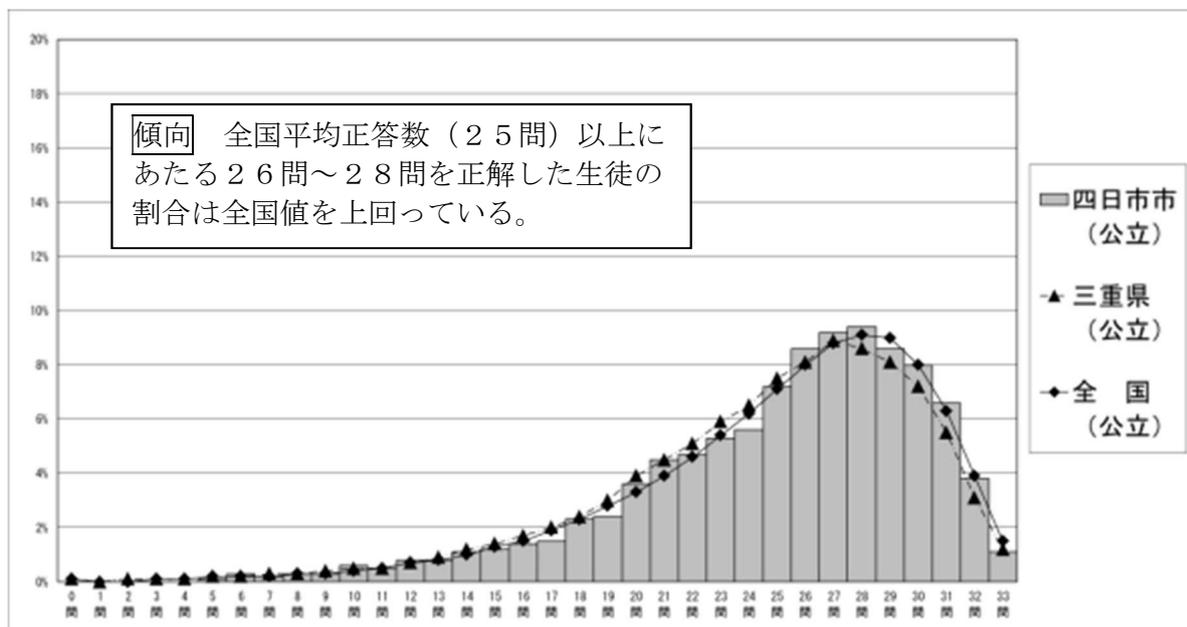


2 教科別 正答数分布グラフ (中学校)

国語A

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,740	25.0 / 33	75.8	26.0	5.3
三重県 (公立)	15,559	24.5 / 33	74.4	26.0	5.4
全国 (公立)	996,188	25.0 / 33	75.6	26.0	5.4

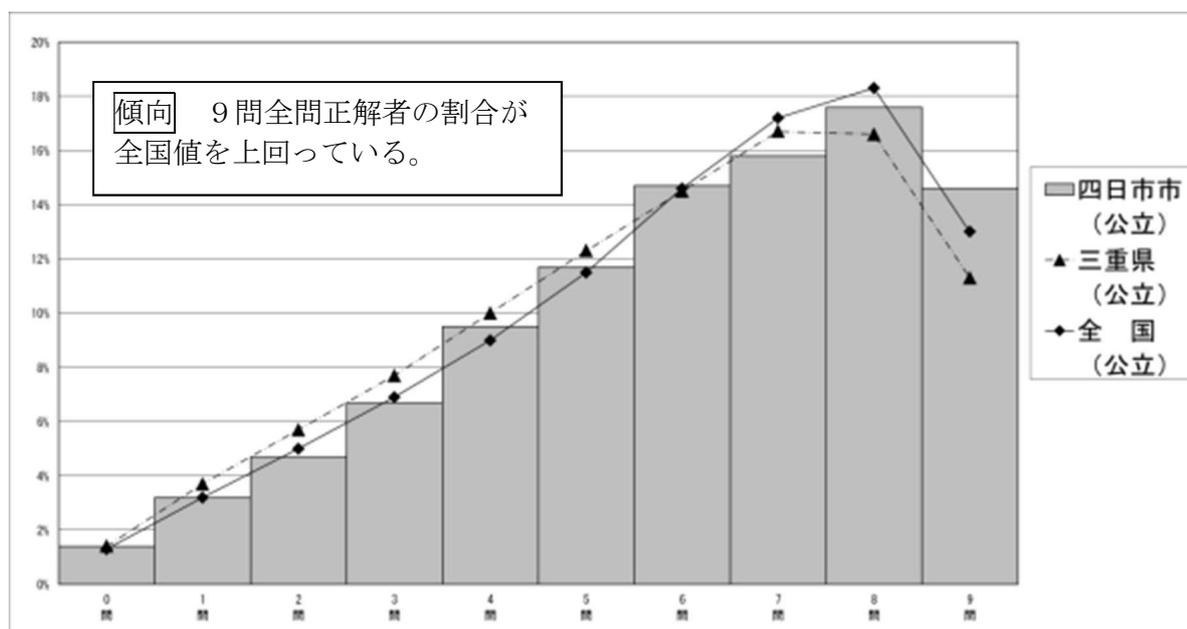
(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))



国語B

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,740	6.0 / 9	66.7	6.0	2.3
三重県 (公立)	15,561	5.8 / 9	64.3	6.0	2.3
全国 (公立)	996,365	6.0 / 9	66.5	6.0	2.3

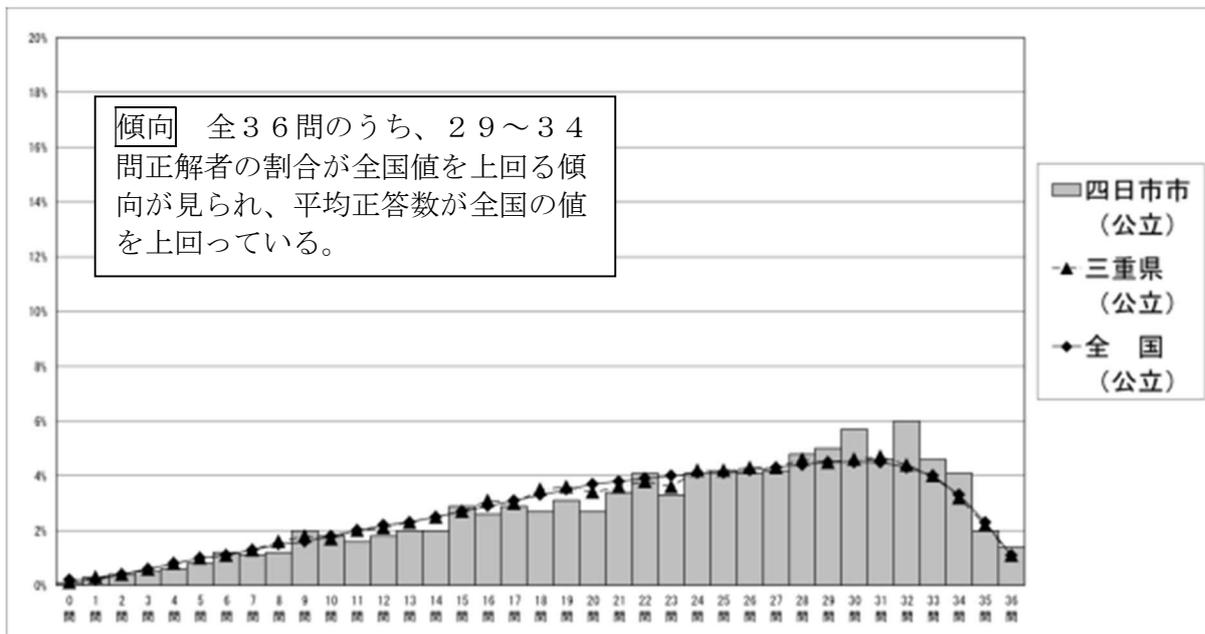
(横軸：正答数 (問)、縦軸：割合 (%))



数学A

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,740	23.2 / 36	64.4	25.0	8.4
三重県 (公立)	15,563	22.4 / 36	62.2	24.0	8.4
全国 (公立)	996,502	22.4 / 36	62.2	23.0	8.3

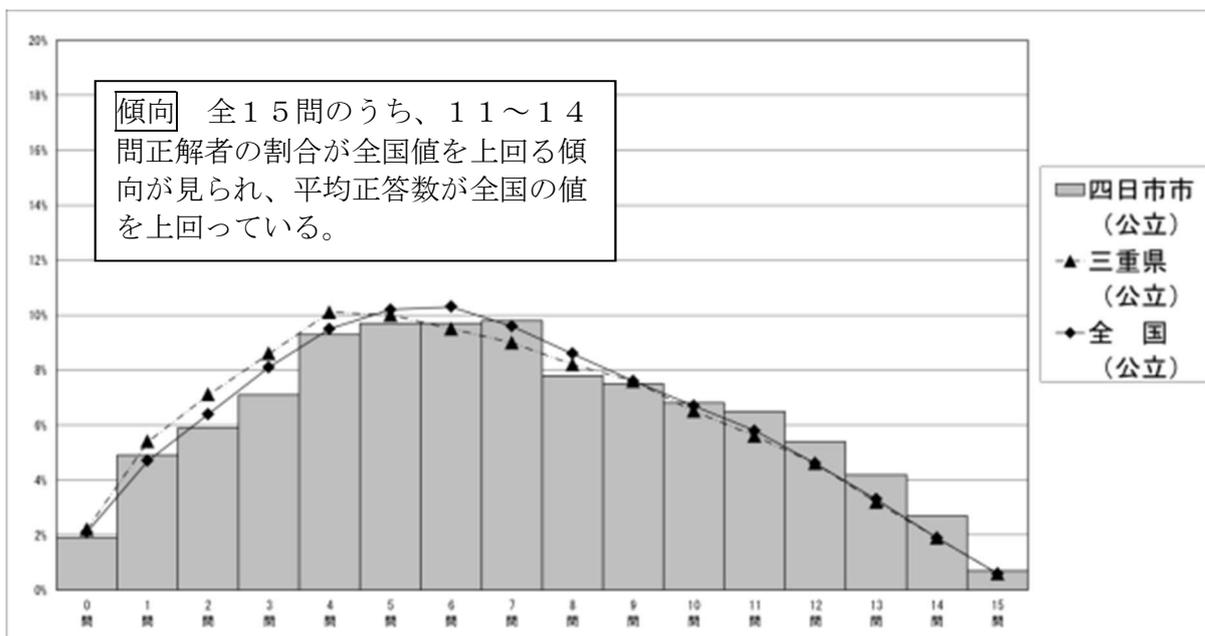
(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))



数学B

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,742	6.9 / 15	45.9	7.0	3.6
三重県(公立)	15,559	6.5 / 15	43.2	6.0	3.6
全国(公立)	996,578	6.6 / 15	44.1	6.0	3.5

(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))



3 校種・教科別 調査結果概要（小学校）

【 小 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語A			国語B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	1	79.5	79.2	3	49.4	51.1
書くこと	2	72.2	72.8	6	54.5	53.4
読むこと	2	78.1	78.5	3	71	69.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	70.8	71.1	0		
全体	15	72.5	72.9	10	58	57.8

問題形式	国語A			国語B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
選択式	6	77	77.2	6	59.4	59.9
短答式	9	69.5	70	0		
記述式	0			4	56	54.7
全体	15	72.5	72.9	10	58	57.8

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
					話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式
国語A	1-1	漢字を読む (今日は全国的に快晴だ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	○							
	1-2	漢字を書く (したい友人と出かける)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	▽							
	8-2	ローマ字を書く (あさって)	平仮名で表記されたものをローマ字で書く	▽							
国語B	1-1	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する	目的に応じて、質問したいことを整理する	▽							
	1-2	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	▽							
	2-1	「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する	グラフを基に、分かったことを的確に書く	○							
	3-3	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

【 小 学 校 算 数 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	算数A			算数B			問題形式	算数A			算数B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
数と計算	10	81.5	80.5	6	44.2	44.4	選択式	5	76.3	75.8	5	57.5	56.7
量と測定	2	77.3	77	5	44	43.7	短答式	11	79.7	78.5	3	66.8	66.4
図形	2	79.4	78.8	3	36.7	36.3	記述式	0			5	26	26.2
数量関係	3	70.3	68.5	6	43.9	42.9	全体	16	78.7	77.6	13	47.5	47.2
全体	16	78.7	77.6	13	47.5	47.2							

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
					数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式
算数A	3(2)	7, 1, 7, 7, 01の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	数の大小関係を理解している	○							
	9(2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している	○							
算数B	4(1)	学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる	○							
	4(3)	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

3 校種・教科別 調査結果概要（中学校）

【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語A			国語B			問題形式	国語A			国語B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	6	79.3	78.9	0			選択式	23	73.9	73.5	5	70.4	70.6
書くこと	4	74.7	73.7	3	59	58.3	短答式	10	80.1	80.5	1	71.6	71.1
読むこと	6	79	78.6	9	66.7	66.5	記述式	0			3	59	58.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	73.6	73.9	0			全体	33	75.8	75.6	9	66.7	66.5
全体	33	75.8	75.6	9	66.7	66.5							

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式
2二	文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する	○							
8二	資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する	奥付を使って本についての情報を得る	○							
9一1	漢字を書く（大学で歴史のケンキュウをす）	文脈に即して漢字を正しく書く	○							
9一2	漢字を書く（今までにないドクソウ的な考えだ）	文脈に即して漢字を正しく書く	▽							
9二3	漢字を読む（目上の人を敬う）	文脈に即して漢字を正しく読む	▽							
9三ウ	適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけて育てる）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	▽							
9五	文章を書き直した意図として適切なものを選択する	文の成分の照応について理解する	○							
9六	題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する	文字の形や大きさ、配列に注意して書く	○							
国語B	平成28年「国語B」の正答率は、9問全て <全国比-1.9%~+1.9%の範囲内>									

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	数学A			数学B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
数と式	12	67	65.9	6	52.1	51.5
図形	12	68.7	67.1	2	34.7	33.3
関数	8	56.8	52	5	44.5	41.4
資料の活用	4	58.5	56.5	2	42.1	39.3
全体	36	64.4	62.2	15	45.9	44.1

問題形式	数学A			数学B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
選択式	13	59	57.8	2	44.6	41.3
短答式	23	67.4	64.6	6	59	57.8
記述式	0			7	35.1	33.1
全体	36	64.4	62.2	15	45.9	44.1

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い
 ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
1 (2)	-5, 0, 1, 2, 5, 4の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解している	○							
2 (1)	ある数を3でわると、商がaで余りが2になるとき、ある数をaを用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	○							
3 (2)	一元一次方程式 $2x = x + 3$ の解について、正しい記述を選ぶ	一元一次方程式の解の意味を理解している	○							
3 (3)	縦と横の長さの比が5:8の長方形の看板について、縦の長さが4.5cmのときの横の長さx cmを決めるための比例式をつくる	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○							
5 (4)	円柱の体積が600cm ³ のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める	円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることを理解している	◎							
6 (1)	平行線や角の性質を用いて∠APBの大きさを求める	平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる	○							
6 (2)	多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ	多角形の外角の和の性質を理解している	○							
7 (1)	△ABCと△DEFが合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	三角形の合同条件を理解している	○							
7 (2)	ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す	ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができる	○							
7 (3)	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	命題の逆を理解している	▽							
9 (3)	反比例を表した事象を選ぶ	具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している	◎							
9 (4)	反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフ上の点の座標からxとyの関係を式で表すことができる	◎							
10 (1)	一次関数の表からグラフを選ぶ	一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解している	◎							
10 (2)	一次関数の式から変化の割合を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定でaの値に等しいことを理解している	○							
10 (3)	一次関数のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める	一次関数のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求めることができる	◎							
1 1	一次関数の事象を式で表す	具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる	○							
12 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	◎							
2 (2)	x=4のときy=9になるように、xとyの間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる	○							
3 (2)	B車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ	グラフの傾きを事象に即して解釈することができる	○							
3 (3)	A車とB車について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	○							
4 (1)	2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる	○							
5 (2)	25.5cmの靴が貸し出された回数相対度数を求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる	○							
6 (2)	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる	○							
6 (3)	当てる方法を変えるとき、新しい数当てゲームの手順について当てはまる言葉を選ぶ	計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

国語A 3 表現の仕方について助言する

5 一文が長くて内容が伝わりにく
4 ゲームの手順が正しく伝わるよう
3 だれにでも分かるように、難し
2 多くの人に伝えるので、文末を
1 ゲームの手順が分かりやすいよ
内容のまじまりごとに番号をつ
多くの人に伝えるので、文末を
だれにでも分かるように、難し
ゲームの手順が正しく伝わるよう
一文が長くて内容が伝わりにく

【学年集会のお知らせの下書き】

学年集会のお知らせ
「めざせチャンピオン
じゃんけん列車ゲーム」
5月12日（木）、8時25分から、
体育館で行います。

◆ルール説明

二人でじゃんけんをして、負けた人は勝った人の後ろにならんで列を作り、勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをし、それを全員が一列になるまでくり返して、最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

書き直したルール説明

① 二人でじゃんけんをします。
② 負けた人は勝った人の後ろにならぶ列を作ります。
③ 勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをします。
④ ②、③を全員が一列になるまでくり返します。
⑤ 最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

書き直したルール説明で変わったことは何か

分かりやすい表現

＜結果・課題＞

目的や意図に応じて、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することに課題がある。

国語A3の設問の正答率

本市平均	65.5%
全国平均	67.4%
全国比	-1.9%

＜学習指導に当たって＞

(1) グループやペアなどで、互いに文章を読み合い、文章を見直したり、評価し合ったりする活動を取り入れる。

高学年で学習する「書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと」は、低学年の「書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと」、中学年の「書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと」を受けて、系統的に指導されなければならない。

低学年、中学年から、互いに文章を読み合い、目的に応じて友だちの書いた文章の良さを見つけて感想を伝え合ったり、意見を述べ合ったりするなど、文章を評価する力を高める学習活動を取り入れる必要がある。その際、評価する視点を具体的に提示することが大切である。

(2) 読み手にとってわかりやすい表現方法を具体的に指導する。

「箇条書きにする」「短い文章で表現する」「順序に沿って書く」「対比させて書く」など、「分かりやすい表現」を学年に応じて具体的に指導する。

国語科だけでなく、他の教科等でも同様に指導する。

【その他「分かりやすい表現」の例】

- ・ 書き手の考えが明確に表れていること。
- ・ 段落相互の関係等が明確であること。
- ・ 曖昧な表現がないこと。
- ・ 見出しと説明が合っていること。
- ・ 文章と合わせた適切な資料があること。

国語B 1二 質問の意図を捉える

1 山下さんは、食について興味をもち調べたスーパーマーケットの店長にインタビューをする。「インタビューメモ」と「インタビューの一部」です。

【事前に準備したインタビューメモ】
（もっと知りたいこと）
スーパーマーケットの食料品売り場では、どうだろうか。
（食料品売り場について調べたこと）
スーパーマーケットでは、様々な外国産の食料品がほん売されている。
（必ず聞くこと）
外国産の食料品は売られているのか。
（予想）ねだんが安いから、売れている。
（必要に応じて聞くこと）
ねだんが安いものが売れるのか。
最近売れている食料品は何か。
お客さんの反応はどうか。
「産地地消」と書いたせんぼの文字があり、地域で生産された農作物などが売られている。

【インタビューの一部】
山下さん スーパーマーケットでは、様々な外国産の食料品が売られていますか。
店長 よく売れている食料品もあります。
山下さん 売れている食料品は値段が安いのですか。
店長 そうですね。売れている外国産の食料品は値段の安いものが多いです。
山下さん 売れている外国産の食料品は安いものが多いということですが、安い食料品がお客様に選ばれているのですか。
店長 安い食料品も売っていますが、産地に関わらず値段の高い食料品もお客様には選ばれています。
山下さん お客さんは安いというだけで選んでいるわけではないということですね。では、お客さんは他にどのような理由で食料品を選んでおられるのでしょうか。
店長 新鮮さや品質など、安心して食べることができるものを選んでおられることが多いです。
山下さん 分かりました。お客さんの選び方には、いろいろあるんですね。今の話とも関係があると思うのですが、店内には地元産の農作物などを地元で売っている「産地地消のコーナー」があります。地元の農作物もお客様に選ばれているのですか。
店長 そうです。地元のものほど新鮮で、お客様にも「安心しておいしく食べられる」と、大好評です。

5（インタビューが続く）

1 山下さんが「事前に準備したインタビューメモ」にどのように応えているのか。

（必ず聞くこと）
外国産の食料品は売られているのか。
（予想）ねだんが安いから、売れている。
（必要に応じて聞くこと）
ねだんが安いものが売れるのか。
最近売れている食料品は何か。
お客さんの反応はどうか。
「産地地消」についてどのようになっているか。

インタビューメモの構成をとらえる

インタビューの流れをつかむ

<結果・課題>

インタビューメモを活用した質問の意図を捉えることに課題がある。

国語B 1二の設問の正答率	
本市平均	48.2%
全国平均	51.1%
全国比	-2.9%

<学習指導に当たって>

(1) 相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。

インタビューは、メモを見ながら、想定したとおりに質問を進めていくだけでよいわけではない。事前に考えたインタビューメモを基にしながらも、実際の話の展開に応じて質問の仕方を変えたり、新たな疑問が出たら質問をつけ加えたりする必要がある。

そのような力をつけるためには、授業でインタビューモデルを提示して、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなど、具体的な観点を与え、相手の話を注意深く聞く経験を積ませることが大切である。

(2) インタビューをする場を設定し、学んだことを活用できるようにする。

総合的な学習の時間や特別活動（委員会活動、朝の会など）で、他学年の子どもや地域の方にインタビューをする活動を取り入れる。

発達段階に応じた具体的な到達目標を設定し、子どもにも提示する。

活動後は評価を行い、その後の学習や発達を促し、主体的に学ぶ意欲を喚起する。

国語科で学習した言語活動を、他教科等で生かす視点が大切です。



算数A 1(1) 2(3)

- 1(1)
- ÷ 0.8 の商は、□より大きくなる。
 - ÷ 0.8 の商は、□より小さくなる。
 - ÷ 0.8 の商は、□と同じになる。

2(3) 18 ÷ 0.9

1(1)正答率
本市平均 63.9%
 全国平均 64.8%
全国比 -0.9%
 ※ 誤答「2」を選択 ⇒ 29.8%

2(3)正答率
本市平均 77.5%
 全国平均 77.7%
全国比 -0.2%
 ※ 誤答「18 ÷ 0.9 = 2」⇒ 12.1%

<結果・課題>

整数の除法と同様に商は被除数より小さくなると安易に解答したり、感覚的に計算の答えを導き出したりしている。

<学習指導に当たって>

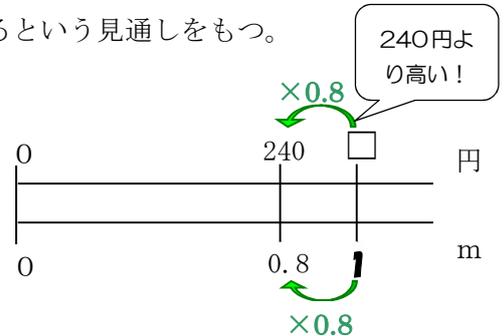
(1) 結果の見通しをもったり確かめたりする習慣をつける。

単に計算させるだけでなく、その前後の過程「計算の結果を見積もる」「結果を確かめる（矛盾はないか）」を意識して指導を行う。また、計算の性質などを授業で扱う際は、1例のみで結論づけるのではなく、他の数値で計算し、そのきまりがいつでも成立することを帰納的に理解させていきたい。

(2) 【授業例】5年生「小数のわり算を考えよう」

1.2mの代金が240円の赤いリボンと、0.8mの代金が240円の青いリボンがあります。
 1mのねだんはそれぞれいくらですか。 <東京書籍 5年生算数 上P54>

- 青いリボン（0.8mで240円）1mの値段は240円より高くなるという見通しをもつ。（数直線図を用いて視覚的にとらえ、数直線図を基に立式させる。）
- さまざまな数値で計算し、除数が1より小さい場合はいつでも商は被除数より大きくなることを確認する。



図と式を関連づけて立式の根拠を明確にする指導

算数A 4 (一部省略)

あるシートの1㎡あたりの人数を調べます。
 このシートの面積は8㎡で、シートの上には
 14人すわっています。

正答率
本市平均 71.2%
 全国平均 72.0%
全国比 -0.8%



シート1㎡あたりの人数を求める式を書きましょう。

<学習指導に当たって>

(1) 低学年から問題文を絵や図に表わして立式することをていねいに指導する。

「8 ÷ 14」と数値が出てきた順に並べて立式する児童が見られる。図（テープ図、線分図、数直線図）は原則として問題の文脈に沿ってかくことを指導し、図の便利さを実感させるとともに、絵や図から立式したり、問題文をつくったりする学習も行っていきたい。

<課題>

導入に時間がかかりすぎたり、グループ活動の時間設定が長すぎたりすることで、定着の時間が十分に保障されない。

<学習指導に当たって>

(1) 45分の授業デザインを、習熟の時間から逆算して考える。

1時間の授業の前半で学習したことを、後半に似た問題を自力で解くことで、「わかったつもり」「できたつもり」から「自分の力で解けた」と子どもが実感できるように、適用問題等を考えていく。

(2) 【授業例】5年生「割合を表すグラフ」

東小学校と西小学校の、カレーライス的人数について、かおりさんは右のようにいいました。かおりさんの考えは正しいですか、正しくないですか。ことばや式を使って、そのわけも説明しましょう。

割合は西小学校のほうが高いから、人数も西小学校のほうが多い。

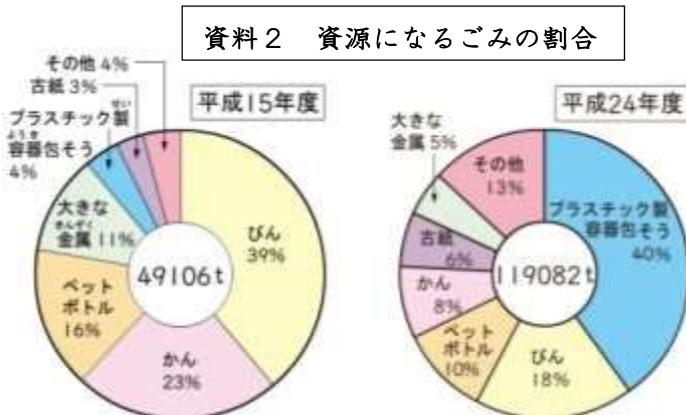
かおり

<東京書籍 5年生算数 下P70~71, 112~113>

- ① かおりさんの考えは正しいか、正しくないか自分の考えを持つ。
- ② 全体、グループ等で話し合い、基準量が異なるため、割合だけでは判断できないことを理解する。
- ③ 正しくないわけについて、ことばや式を使ってノートに書く。(全体指導で確認しながら)
- ④ ①~③の学習を活用して、条件を変更した問題、または、場面設定の違う問題や発展的な問題に自力で取り組む。

<適用問題例①>

資料2を見て、あいさんは「平成24年度のかんの量は、15年度の約3分の1になっている」といいました。あいさんの考えは正しいですか、正しくないですか。そのわけも説明しましょう。



難しい問題ほど、1時間の授業の中で、学習したことを即時的に活用する(確かめる)時間を確保することが大切です。

グラフや表を適切に読み取って判断したり、批判的に考察したりする学習は、実生活や実社会で役立つ力につながります。

<適用問題例②>

- ・ 【授業例】で「カレーライス」の割合が同じなら、どちらの学校の方が「カレーライスを好き」と答えた人数が多いですか。そのわけも説明しましょう。



国語B 2 説明的な文章を読む

- 1 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[B]で実現した際の具体的な利点を書いている。
- 2 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[B]で実現するための具体的な課題を書いている。
- 3 [A] [B]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現した際の具体的な利点を書いている。
- 4 [A] [B]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現するための具体的な課題を書いている。

雑誌などの文章は、抽象から具体へ論理的に書かれている。

<結果・課題>

説明的な文章の構成を捉えて読むことに課題がある。

国語B 2 の設問の正答率	
本市平均	64.5%
全国平均	64.9%
全国比	-0.4%

<学習指導に当たって>

(1) 文章と図表などとの関連について指導する。

説明的な文章には、図表やグラフ、写真やイラストなどの資料が使われていることがある。そのような文章を読む際には、図表などが、文章の中心的部分、または付加的部分のどの部分と関連しているのかを確認し、文章全体の構成を捉えることができるように指導する必要がある。

例えば、図表が使われている文章を読み、図表が文章の内容をより分かりやすくするために使われていたり、文章が図表の解説になっていたりとすることを捉えるなどの学習活動が考えられる。

(2) 説明や記録などの文章を書き、効果的な資料について考えさせる。

実際に新聞などを書かせる場合には、取り上げる資料が、自分の主張を裏付けるための材料として適切であるか、根拠として使用する上で信頼できるものかといった点について検討、判断させ、目的に応じて適切に使い分けられるように指導することが大切である。

(3) 目的に応じて情報を整理する。

資料を読む際には、目的や必要に応じて情報を選択肢し整理することが大切である。その際、線を引いたりメモを取ったりしながら、文章の一部にとどまることなく、文章全体の中から過不足なく情報を取り出して理解することができるように指導する必要がある。例えば、目的に応じて必要な情報を取り出しながら資料を読み、見出しを付けながら取り出した情報を整理するなどの学習活動が考えられる。

数学B¹(3) ドッジボールの進行表に基づいて試合時間の確保ができるかどうか判断する

進行表										
←10分→			60分						←10分→	
開会式	第一試合 1組対2組	休憩	応援合戦	休憩	第二試合 2組対3組	休憩	応援合戦	休憩	第三試合 1組対3組	閉会式

1(3)正答率

本市平均	50.3%
全国平均	51.4%
全国比	-1.1%

1回の休憩を5分、1回の応援合戦を6分とすると、1試合の時間を10分とれるかどうか判断し、その理由を、 $3a + 4b + 2c = 60$ の式をもとに説明する。1試合の時間をa分、1回の休憩をb分、1回の応援合戦をc分とする。

ア 1試合の時間を10分とることができる。 イ 1試合の時間を10分とることができない。

<結果・課題>

正しく「イ」と選択できている場合であっても、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することに課題がある。

<学習指導に当たって>

(1) 数式を根拠として事柄を成り立つ理由を説明する活動を取り入れる。

日常的な事象を数学的な解釈に基づいて考察し、事柄が成り立つ理由を説明できるような指導を継続して行う。その際、説明すべき事柄を明確にした上で、その根拠を数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明することが大切である。

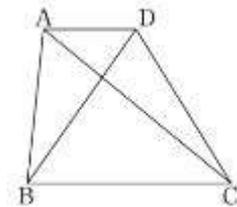
生徒の苦手な課題を把握し、わかる授業を目指す

数学A⁷(3) 命題とその命題の逆との関係

四角形ABCDで、 $AD \parallel BC$ ならば、 $\triangle ABC = \triangle DCB$ である。

このことがらの逆を考える。

四角形ABCDで、① ならば、② である。



7(3)正答率

本市平均	69.7%
全国平均	72.3%
全国比	-2.6%

<結果・課題>

数学的な表現を用いて説明することに課題がある。①に $\triangle ABC \cong \triangle DCB$ と解答し、②に $AD \parallel BC$ と解答している反応率が11.0%である。平成24年度に同様の問題が出題されており、その時の平均正答率は、75.5%で全国より1.5ポイント高い。

<学習指導に当たって>

(1) 日常事象の中から数や図形の性質などを見だし、その特徴を数学的な表現を用いて説明する活動を重視する。

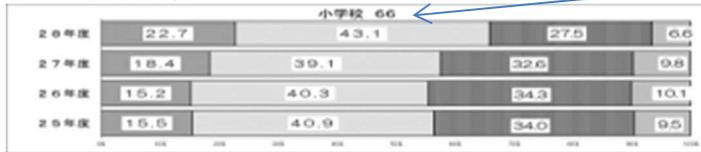
数学A13(1)「確率の意味と求め方」においても、簡単な確率を求めることはできるが、「同様に確からしい」ことの意味を理解することに課題がみられる。

言語活動の充実という観点からも、授業の中で、日常事象の中から数や図形の性質などを見だし、その特徴を数学的な表現を用いて説明することを重視したい。口述や記述を求めたとき、それが正答か誤答かだけみるのではなく、自分なりの表現を認め、それを数学的に洗練していく指導が大切である。生徒の表現からどのようなところにつまずいているのかを捉え、次の指導につなげていきたい。

5 各質問紙の調査結果からみえてくること

【グラフの見方】

(例) <経年変化グラフは本市のみの回答状況>



質問紙 質問番号

全国28年度(小)	25.1	41.9	26.0	6.8
-----------	------	------	------	-----

平成28年度全国の回答状況
左から1・2・3・4の回答を表す。

- ※ 数値の合計は100にならない場合がある。
- ※ 回答方法の記載がないグラフの表示は以下のとおりである。
- ※ 肯定回答は1を選択、肯定的回答は1・2を選択した場合を表す。

1	2	3	4
当てはまる そう思う	どちらかといえば、 当てはまる どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 当てはまらない どちらかといえば、 そう思う	当てはまらない そう思わない

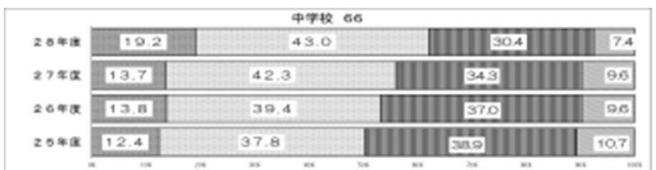
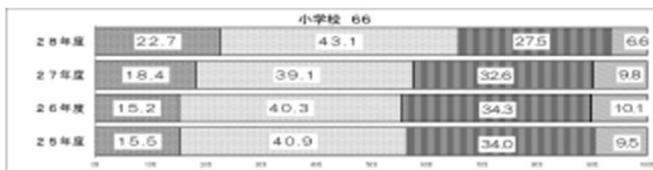
(1) 児童・生徒質問紙の4年間の経年変化及び学力の相関

① 学習に関する関心・意欲・態度

<国語>

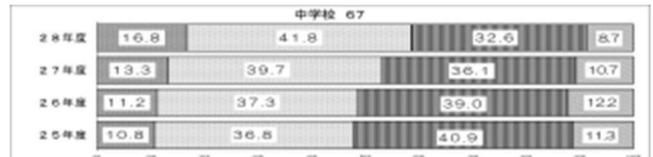
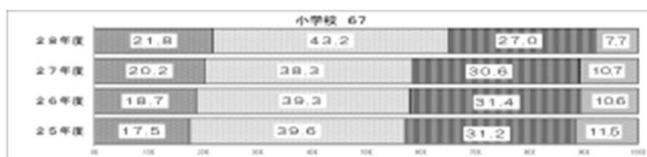
- ・ 小中ともすべての項目において、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的回答をした割合が年々高くなってきている。
- ・ 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の項目については、中学3年生が小学6年生時（平成25年度）より肯定的回答の割合が高くなっている。
- ・ 平成28年度の全国との比較では、小中ともすべての項目において、肯定的回答の割合は、ほぼ同等である。

○ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



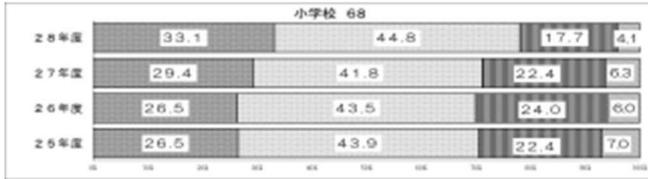
全国28年度(小)	25.1	41.9	26.0	6.8	全国28年度(中)	19.5	42.7	29.3	8.3
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。

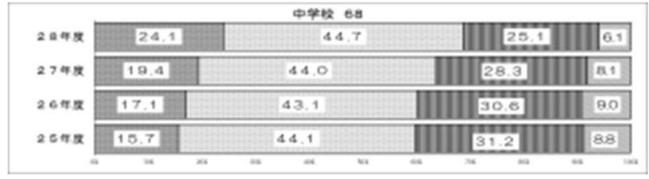


全国28年度(小)	20.8	41.5	28.9	8.5	全国28年度(中)	15.9	40.8	33.4	9.6
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。

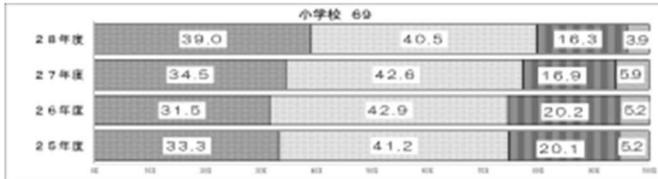


全国28年度(小)	31.9	42.1	20.4	5.3
-----------	------	------	------	-----

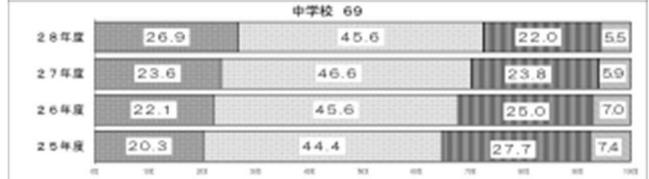


全国28年度(中)	23.1	43.6	26.0	7.1
-----------	------	------	------	-----

○ 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか。



全国28年度(小)	38.3	39.8	16.8	4.8
-----------	------	------	------	-----

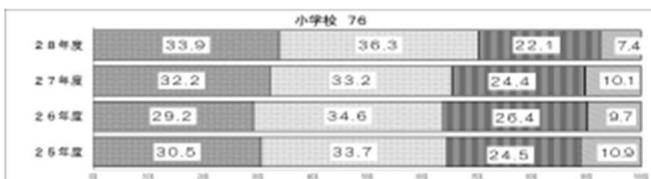


全国28年度(中)	26.8	44.5	22.3	6.1
-----------	------	------	------	-----

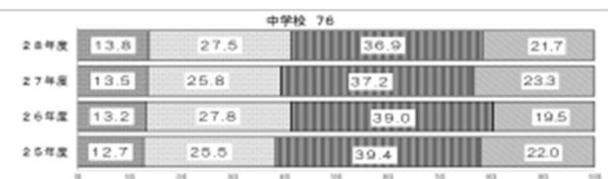
<算数・数学>

- ・ 「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的回答をした割合が年々高くなってきている。
- ・ 平成28年度の全国との比較では、小中ともすべての項目において、肯定的回答の割合は、ほぼ同等である。

○ 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

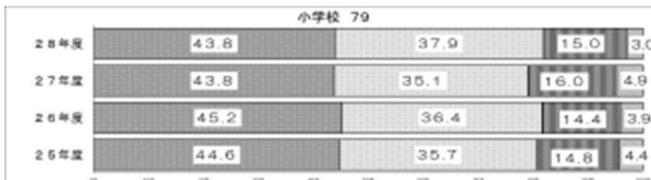


全国28年度(小)	33.4	34.0	23.0	9.2
-----------	------	------	------	-----

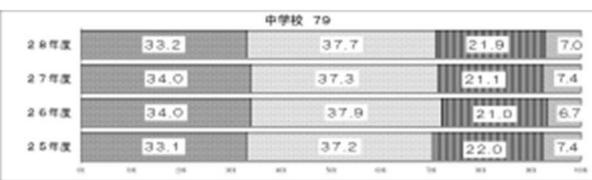


全国28年度(中)	15.1	26.8	35.8	21.9
-----------	------	------	------	------

○ 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。

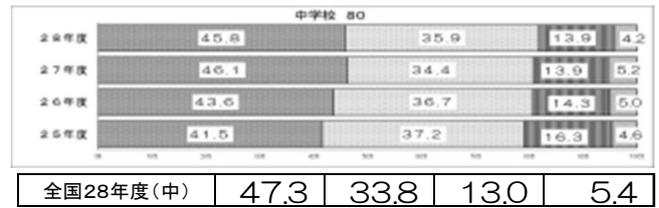
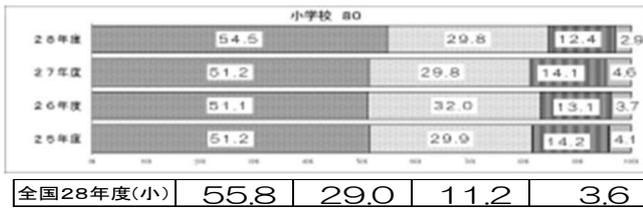


全国28年度(小)	45.5	35.3	14.5	4.3
-----------	------	------	------	-----



全国28年度(中)	32.2	37.6	21.9	7.8
-----------	------	------	------	-----

○ 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。



<教科等別の比較>

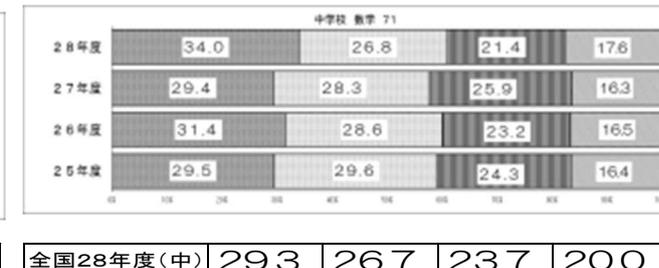
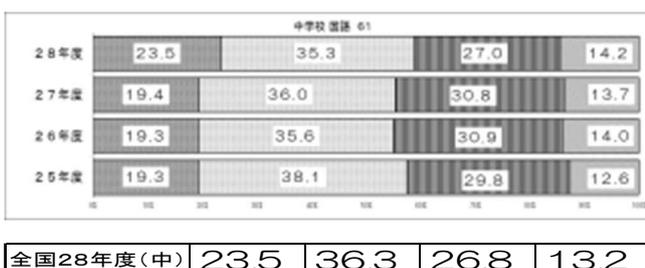
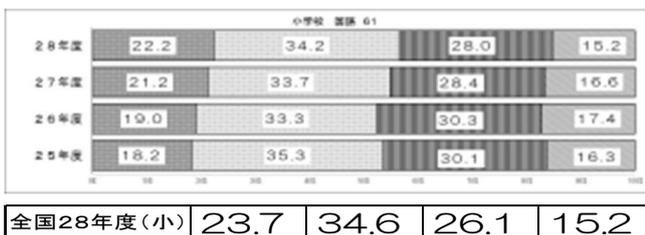
(平成28年度の回答との比較)

- ・ 小中とも、算数・数学の方が国語より「勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」と肯定回答をした割合が高い。特に中学校数学は、全国より約5ポイント程度上回っている。
- ・ 小学校においては、算数の方が国語より、「勉強が大切だ」「将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定回答した割合が高い。
- ・ 中学校においては、国語の方が数学より、「勉強が大切だ」「将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定回答した割合が高い。
- ・ 小中とも全教科において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的回答をした割合は、全国とほぼ同等である。

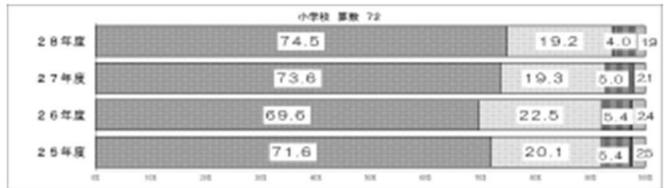
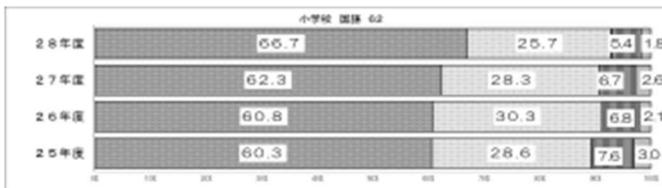
(経年変化より)

- ・ 「勉強は好きですか」の肯定的回答の割合は、あまり変化がみられない。
- ・ 小中とも国語に関して「勉強が大切だと思いますか」の肯定回答は増加傾向にある。算数・数学については、あまり変化はみられない。
- ・ 小中とも「授業内容はよく分かりますか」の肯定回答は、増加傾向にある。しかし、中学校数学においては、否定回答の割合が増加傾向にある。
- ・ 小中とも「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定回答は、増加傾向にある。平成25年度と比較すると、小学校国語は約8ポイント、中学校国語は約11ポイント増加している。

○ 国語(算数・数学)の勉強は好きですか。

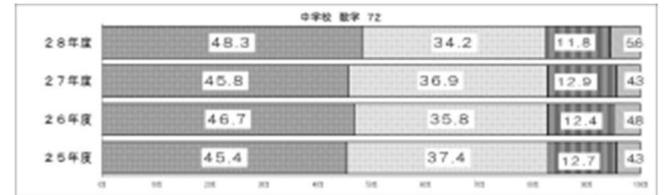
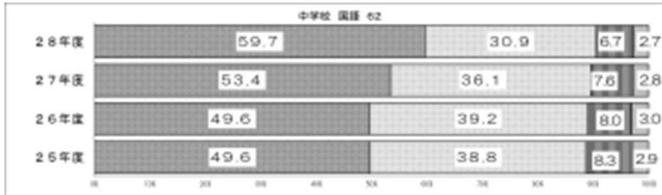


○ 国語(算数・数学)の勉強は大切だと思いますか。



全国28年度(小) 65.9 | 25.4 | 5.8 | 2.7

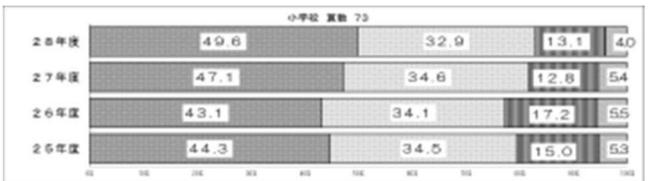
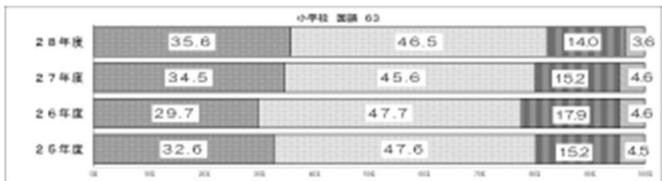
全国28年度(小) 72.6 | 19.3 | 5.1 | 2.7



全国28年度(中) 56.3 | 32.8 | 7.5 | 3.2

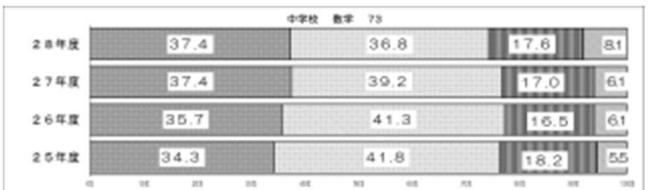
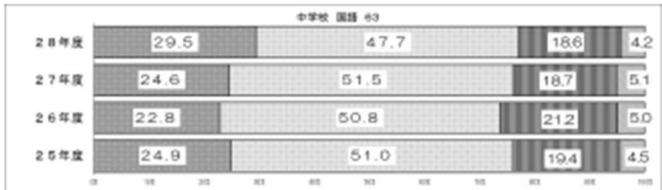
全国28年度(中) 47.0 | 33.5 | 13.1 | 6.1

○ 国語(算数・数学)の授業内容はよく分かりますか。



全国28年度(小) 36.3 | 44.4 | 14.4 | 4.6

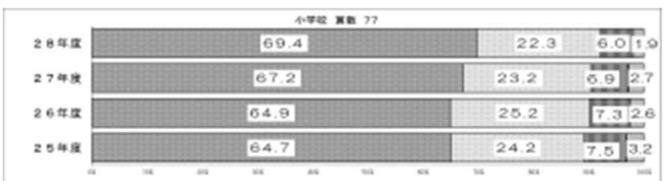
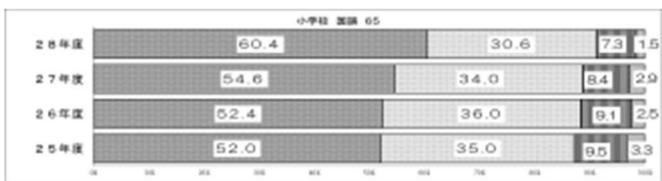
全国28年度(小) 46.7 | 33.5 | 14.0 | 5.5



全国28年度(中) 26.2 | 47.9 | 19.8 | 5.9

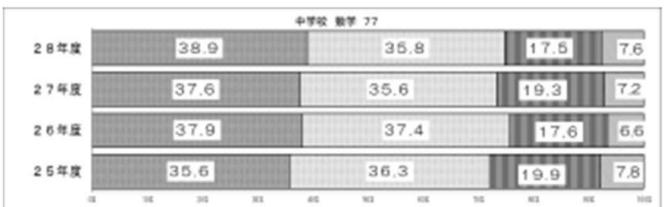
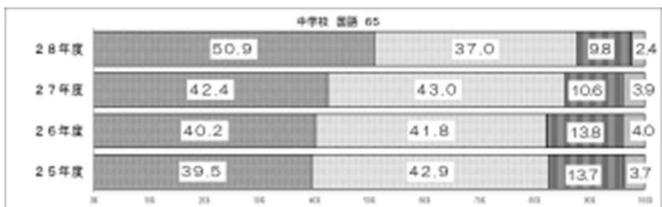
全国28年度(中) 31.7 | 37.7 | 20.7 | 9.5

○ 国語(算数・数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



全国28年度(小) 57.9 | 31.3 | 7.9 | 2.6

全国28年度(小) 67.6 | 22.3 | 7.1 | 2.7



全国28年度(中) 46.2 | 38.4 | 11.5 | 3.7

全国28年度(中) 36.9 | 34.6 | 19.1 | 9.0

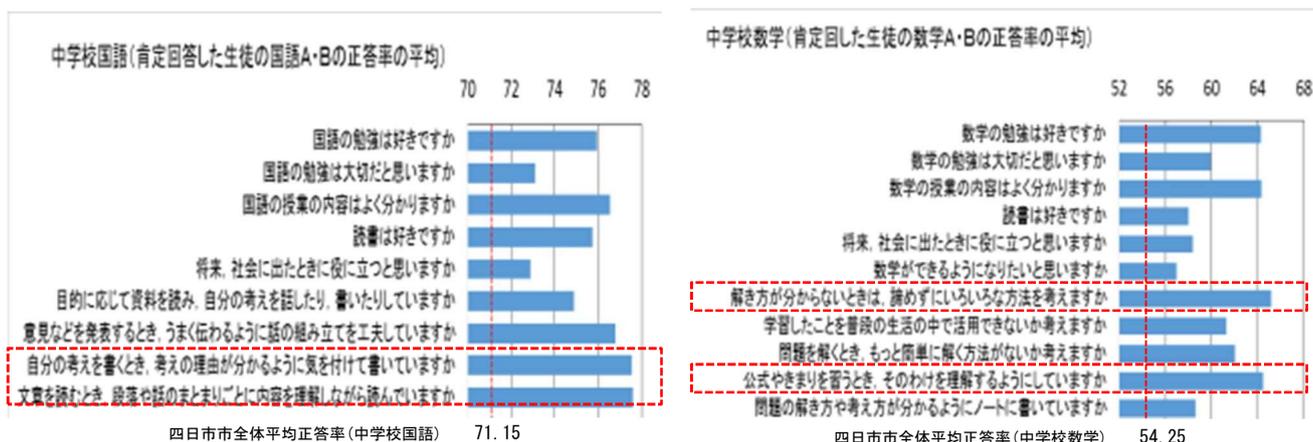
<学力との相関>

- ・ 小学校においては、「内容がよく分かる」「授業が好き」と肯定回答した児童の平均正答率もっとも高い。
- ・ 中学校においては、国語科では「考えの理由を分かるように気を付けて書く」「段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読む」と肯定回答した生徒、数学科では「解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考える」「公式やきまりのわけを理解する」と肯定回答した生徒の平均正答率もっとも高い。
- ・ 「読書が好き」と肯定回答した児童・生徒の平均正答率は、算数・数学より国語の方が学力との相関関係が強い傾向がある。

<小学校>

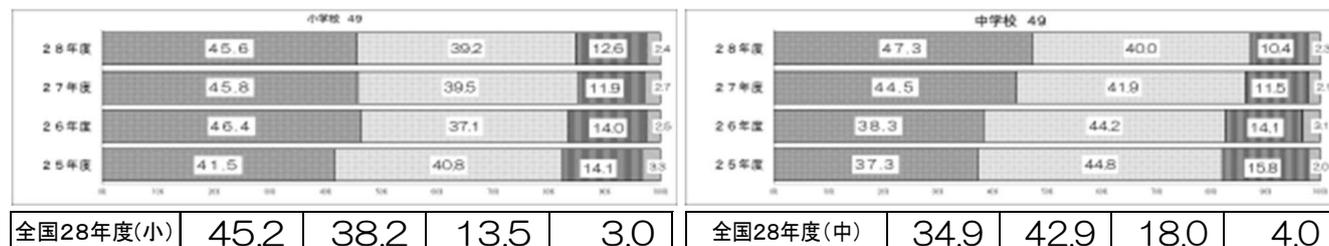


<中学校>



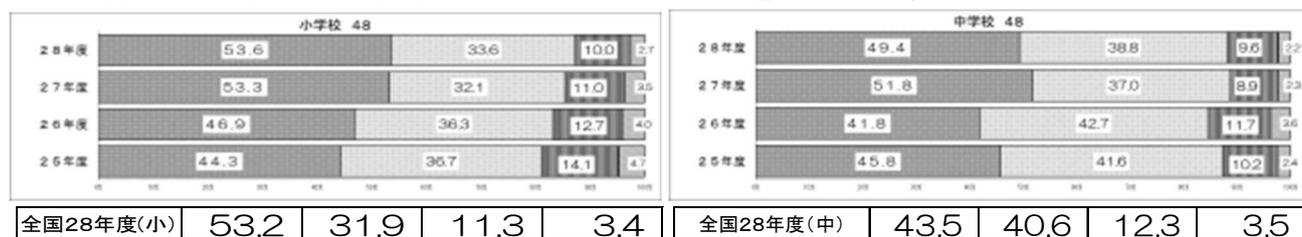
② 学習指導の改善の取り組み状況等（主体的・対話的で深い学びの視点）

○ 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



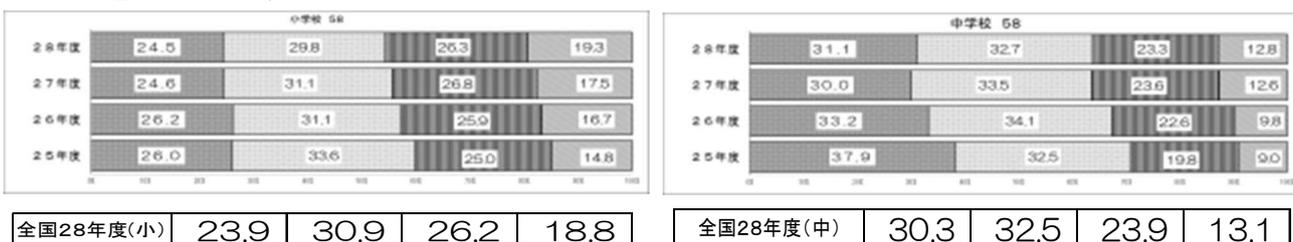
- ・ 小学校においては、肯定的回答をした割合は大きな変化はなく、平成28年度の全国と比べても肯定的回答の割合はほぼ同等である。
- ・ 中学校においては、肯定回答の割合が年々高くなってきており、平成25年度と比較すると10ポイント高く、全国よりも約12ポイント高い。
- ・ 中学3年生が小学6年生時（平成25年度）より肯定的回答の割合が高くなっている。

○ 自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。



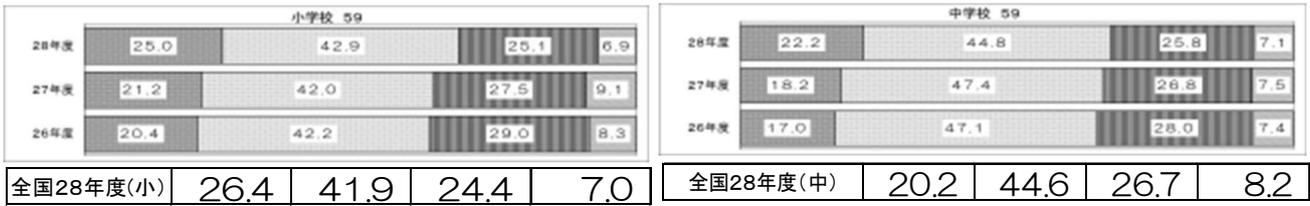
- ・ 小学校においては、肯定的回答の割合が年々増加傾向にあり、肯定回答については、平成25年度と比較すると約9ポイント高い。平成28年度の全国と比べると肯定的回答の割合は、ほぼ同等である。
- ・ 中学校においては、平成28年度の全国と比べると肯定回答した割合が、約6ポイント高い。また、中学3年生が小学6年生時（平成25年度）より肯定的回答の割合が高くなっている。

○ 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



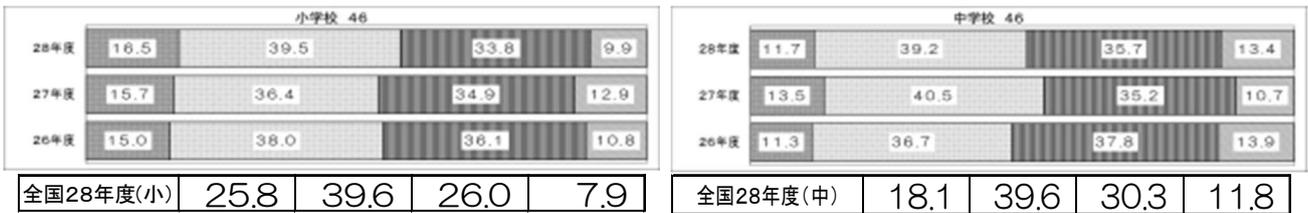
- ・ 小中とも「難しい」「どちらかといえば、難しい」と回答した児童・生徒の割合が、年々低くなってきている。
- ・ 小中とも「難しい」「どちらかといえば、難しい」と回答した児童・生徒の割合は、平成28年度の全国と比べてほぼ同等である。

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



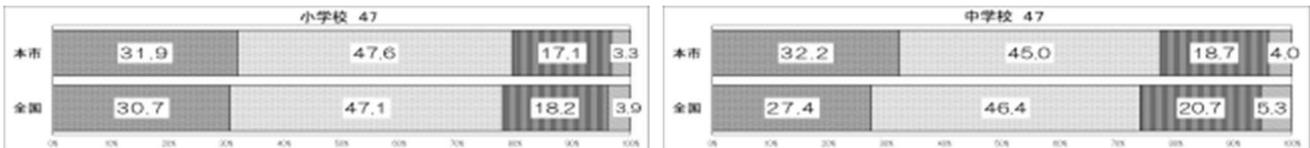
- ・ 小中とも肯定的回答の割合が、年々高くなってきている。平成28年度の全国と比べると肯定的回答の割合は、ほぼ同等である。

- 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



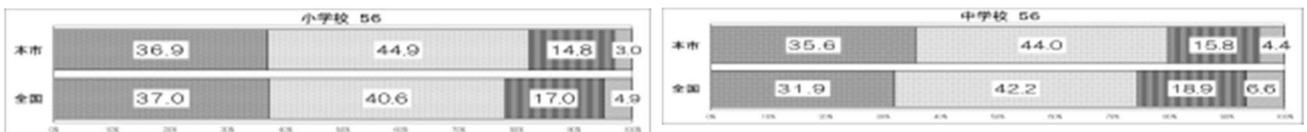
- ・ 肯定的回答は、小中とも毎年ほぼ一定の割合であり、平成28年度の肯定回答の割合は、小学校では約9ポイント、中学校では約6ポイント全国より下回っている。

- 先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。【新規】



- ・ 小学校の肯定的回答の割合は全国とほぼ同等であるが、中学校においては、肯定回答の割合が全国より約5ポイント上回っている。

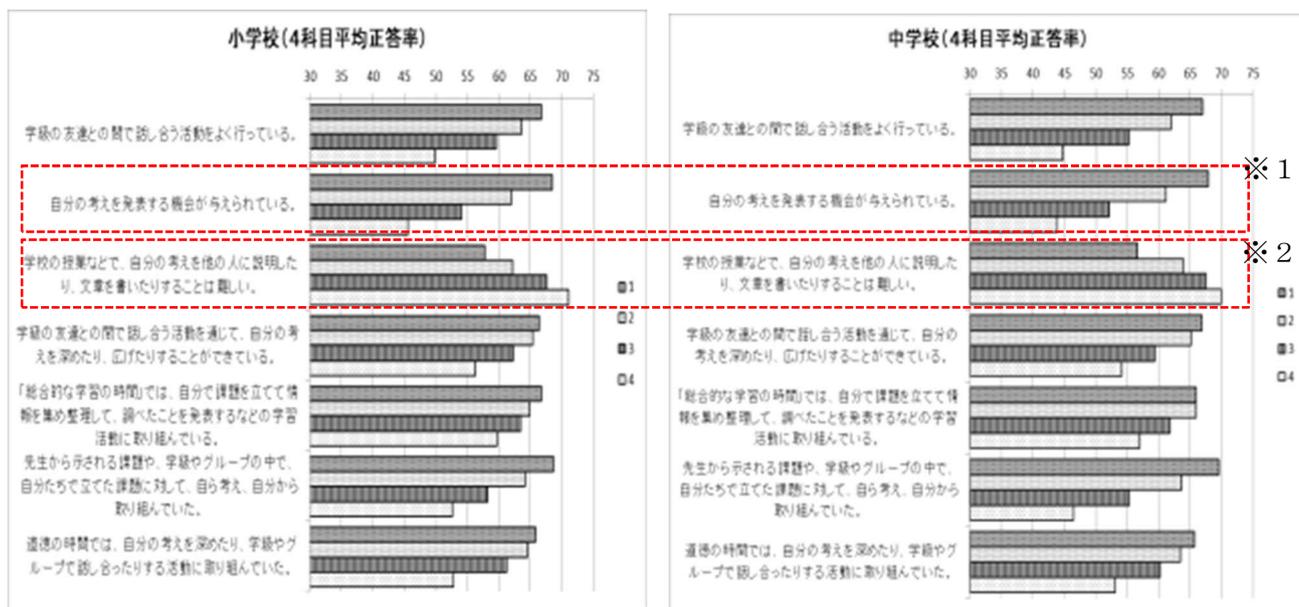
- 道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。【新規】



- ・ 小中とも肯定的回答の割合は、全国と比べてやや上回っている。

<学力との相関>

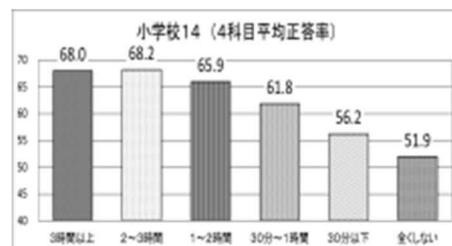
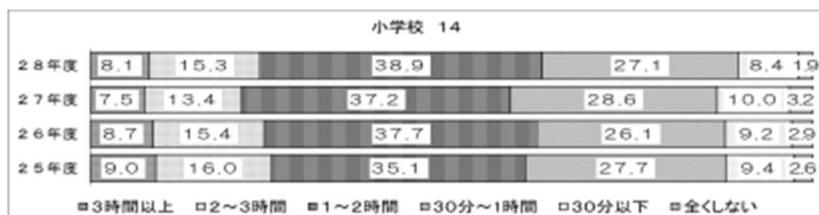
- 「自分の考えを発表する機会が与えられている」について、否定回答した児童・生徒の平均正答率が、下記の質問項目の中で一番低い。(※1)
- 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」「どちらかといえば、難しい」と答えた児童・生徒の平均正答率が低い傾向があり、「難しいと思わない」と答えた児童・生徒の平均正答率は、下記の質問項目の中で一番高い。(※2)



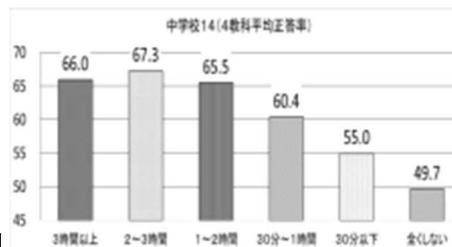
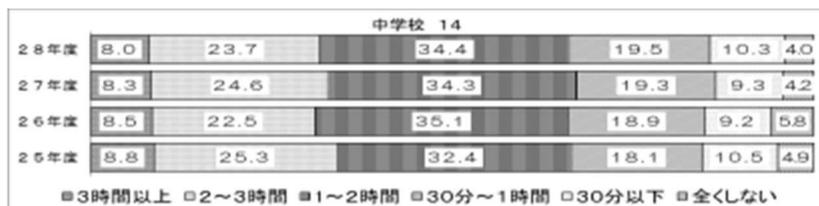
1 ■ 当てはまる 2 ■ どちらかといえば、当てはまる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 ■ 当てはまらない

③ 学習時間帯

- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。



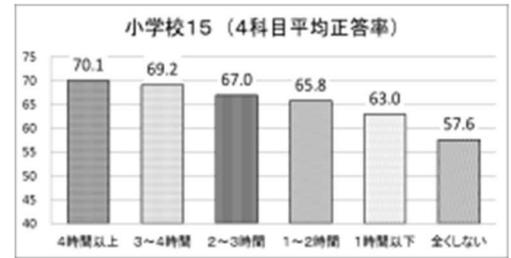
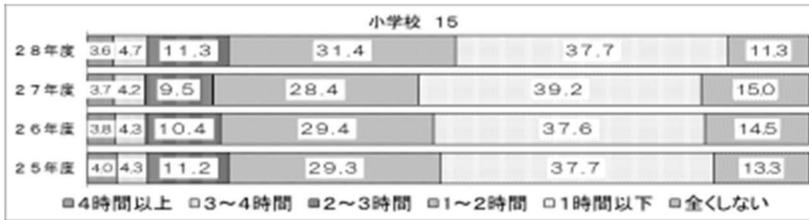
全国28年度(小) 10.8 14.7 37.0 25.4 8.9 3.0



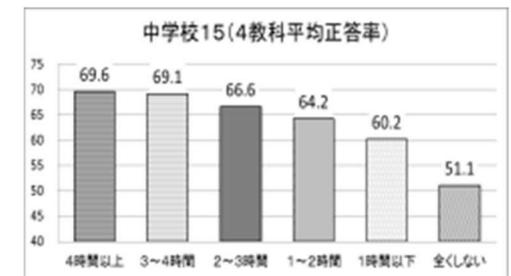
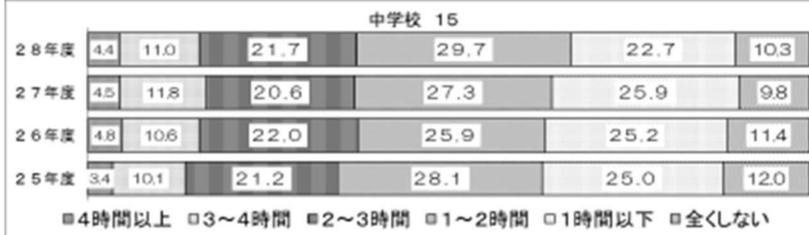
全国28年度(中) 9.4 24.8 33.7 17.7 8.9 5.5

- 一日あたりの勉強時間が長い児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。
- 小中とも「全くしない」と回答した児童・生徒の割合は減少傾向にあり、平成28年度の全国と比べても少ない。
- 「2時間以上勉強している」と回答した割合は全国と比べて低い。

○ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。



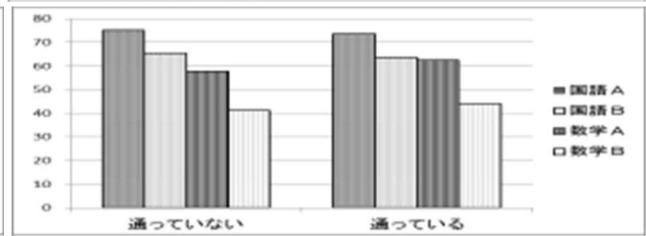
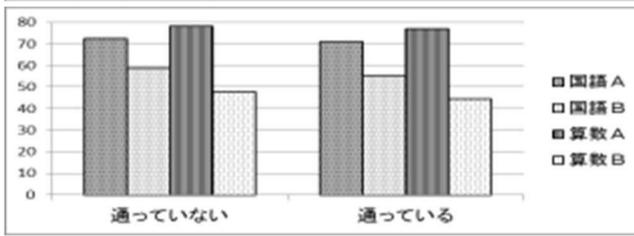
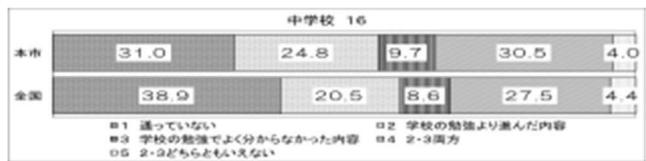
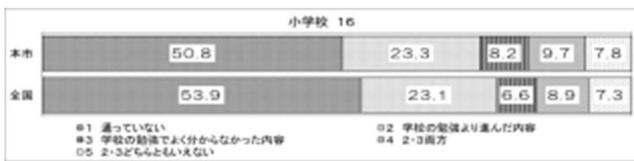
全国28年度(小)	6.7	5.0	12.5	32.8	32.8	10.2
-----------	-----	-----	------	------	------	------



全国28年度(中)	5.1	11.5	23.5	27.7	21.0	11.0
-----------	-----	------	------	------	------	------

- ・ 一日あたりの勉強時間が長い児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。
- ・ 「2時間以上勉強している」と回答した割合は全国と比べて低い。

○ 学習塾 (家庭教師を含む) で勉強をしていますか。



- ・ 塾に通っている割合は、全国と比べると小学校で約3ポイント、中学校で約8ポイント高いが、小中ともすべての教科において、学習塾を利用しているか否かで平均正答率の差はあまりみられない。

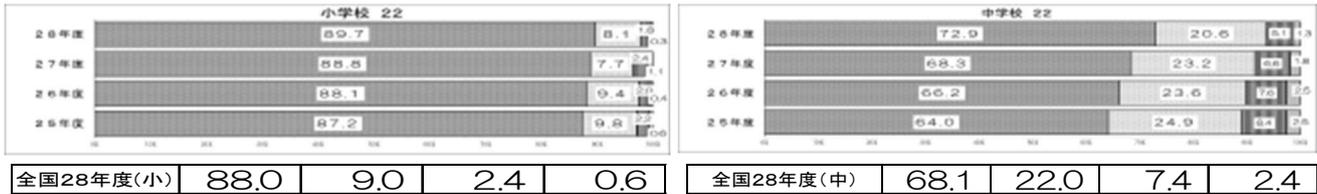
④ 家庭学習

- ・ 小中ともすべての項目において、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的回答をした割合が年々高くなってきている。
- ・ 平成28年度は、すべての項目において小中とも、ほぼ全国と同等の状況である。

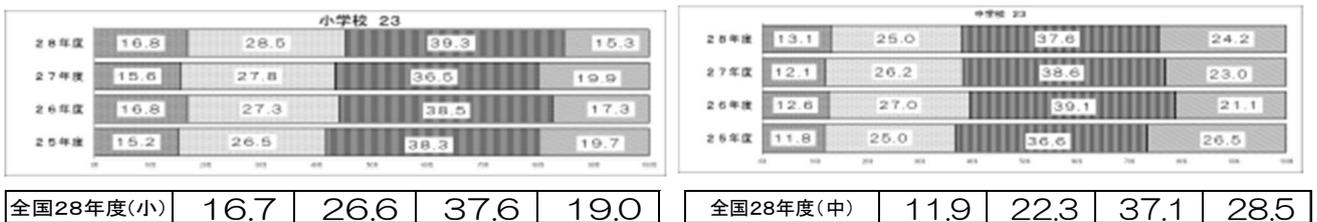
○ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



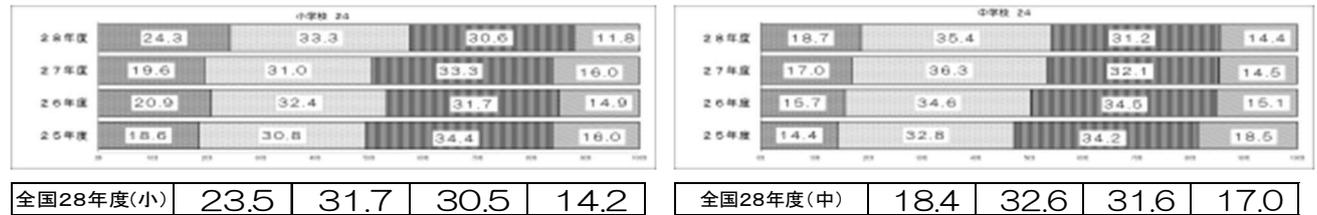
○ 家で、学校の宿題をしていますか。



○ 家で、学校の授業の予習をしていますか。

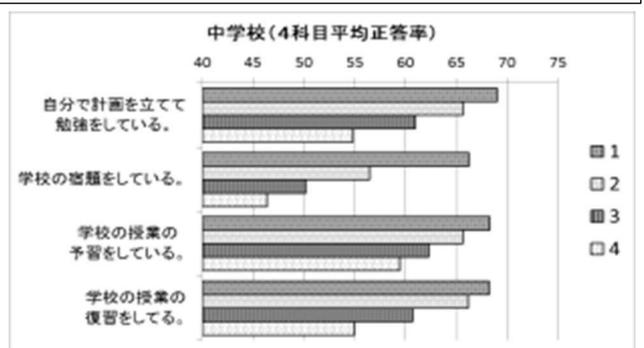
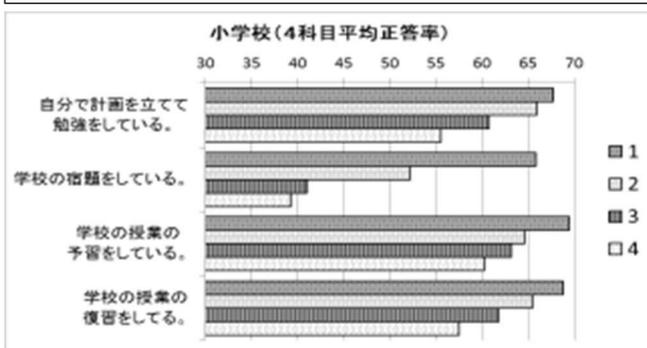


○ 家で、学校の授業の復習をしていますか。



<学力との関連>

- ・ 肯定的回答をした児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。

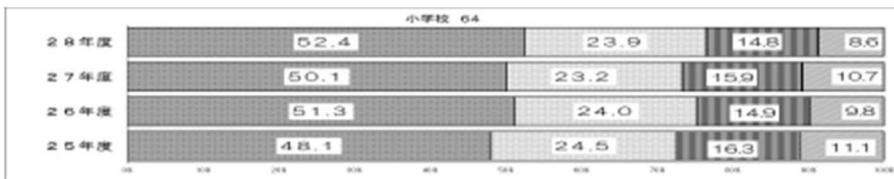


1 ■ 当てはまる 2 ■ どちらかといえば、当てはまる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 ■ 当てはまらない

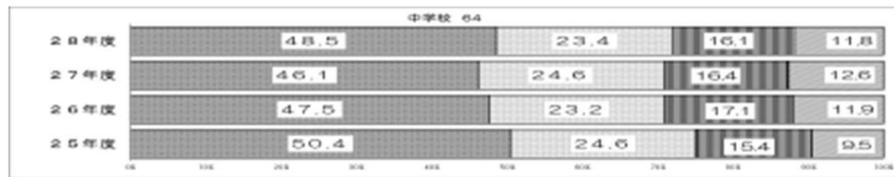
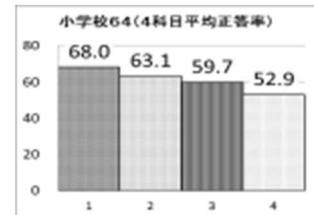
⑤ 読書習慣

- ・ 小学校においては、「読書が好きか」の肯定的回答した割合が、平成25年度より高くなっており、1日30分以上読書をする割合も増えている。
- ・ 中学校においては、「読書が好きか」の肯定的回答の割合が、平成25年度とほぼ同等であるが、否定回答の割合が増加傾向にある。また、1日10分以下の読書時間の割合も増加傾向にある。
- ・ 小中とも「読書が好き」と肯定回答をした割合は、平成28年度の全国と比べて高い。また、肯定回答した児童・生徒の方が、平均正答率も高い傾向にある。
- ・ 小中とも、国語については、読書時間が長くなると、平均正答率が高くなる傾向があるが、算数・数学については、必ずしも平均正答率が高くなるとは言えない。

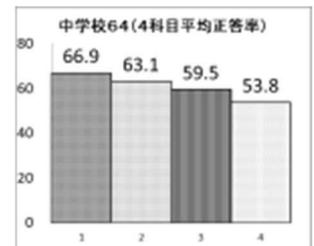
○ 読書は好きですか。



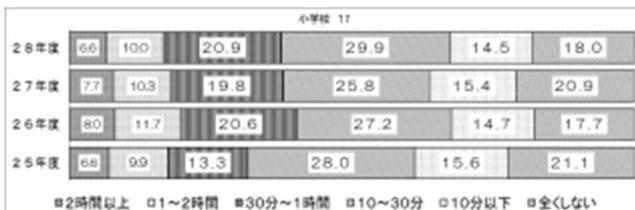
全国28年度(小)	49.3	25.3	15.3	9.9
-----------	------	------	------	-----



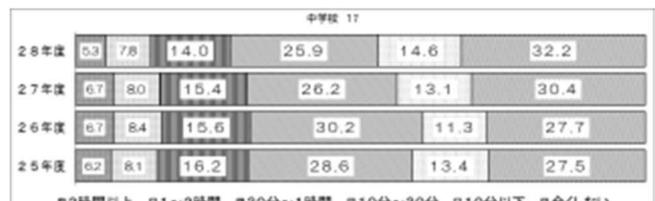
全国28年度(中)	46.5	23.4	16.2	13.6
-----------	------	------	------	------



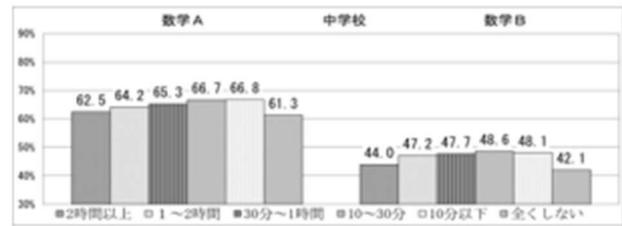
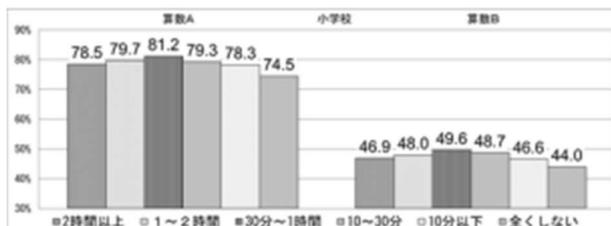
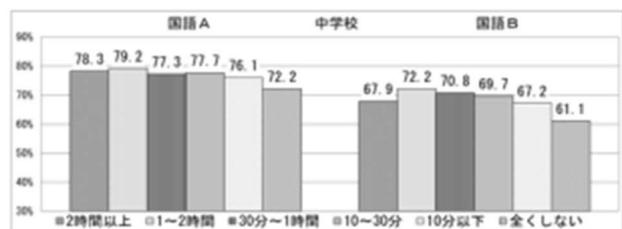
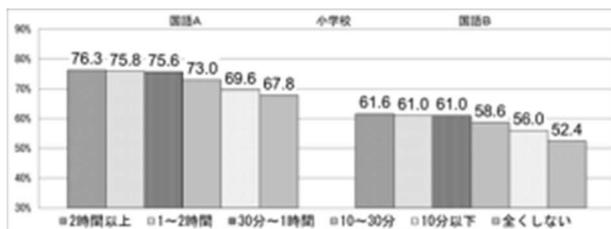
○ 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



全国28年度(小)	6.8	9.9	19.8	27.0	15.9	20.6
-----------	-----	-----	------	------	------	------



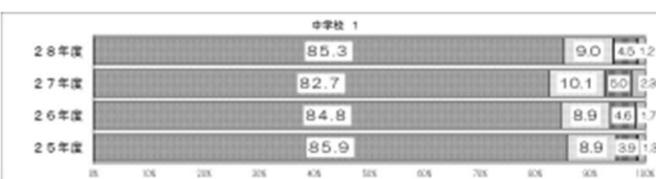
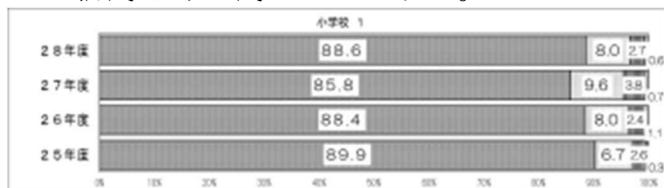
全国28年度(中)	5.5	8.1	14.6	21.5	13.1	37.2
-----------	-----	-----	------	------	------	------



⑥ 基本的な生活習慣

- ・ 小中とも肯定的回答は大きな変化はない。
- ・ 平成28年度は、ほぼ全国と同等の状況にある。

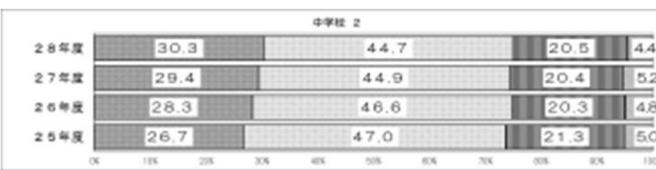
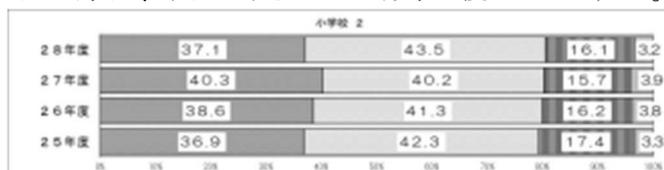
○ 朝食を毎日食べていますか。



全国28年度(小) 87.3 8.2 3.5 0.9

全国28年度(中) 83.3 10.0 4.8 1.8

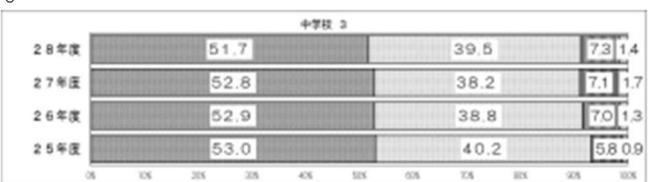
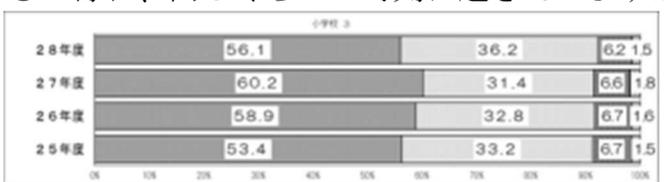
○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



全国28年度(小) 38.2 41.9 16.3 3.5

全国28年度(中) 30.8 44.4 19.7 5.0

○ 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

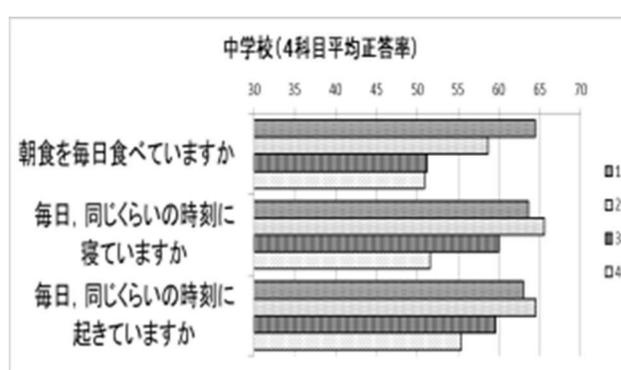
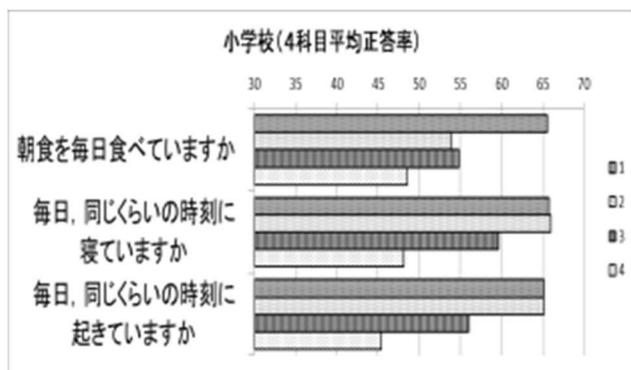


全国28年度(小) 57.4 33.4 7.4 1.7

全国28年度(中) 55.9 36.4 6.2 1.4

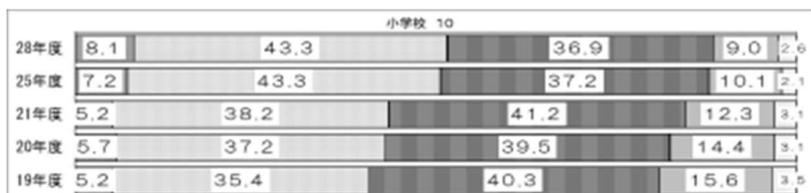
<学力との関連>

- ・ どの項目も肯定的回答した児童・生徒の平均正答率は、高い傾向にある。



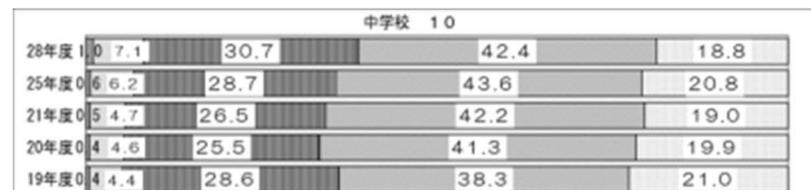
1 ■ 当てはまる 2 ■ どちらかといえば、当てはまる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 ■ 当てはまらない

○ 普段（月曜日から金曜日）何時ごろに寝ますか。【復活】

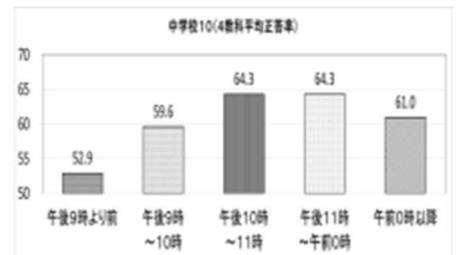
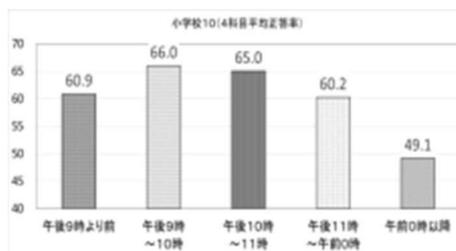


全国28年度(小)	6.6	43.0	36.6	10.8	2.9
-----------	-----	------	------	------	-----

■1. 午後9時より前
 ■2. 午後9時以降、午後10時より前
 ■3. 午後10時以降、午後11時より前
 ■4. 午後11時以降、午前0時より前
 ■5. 午前0時以降

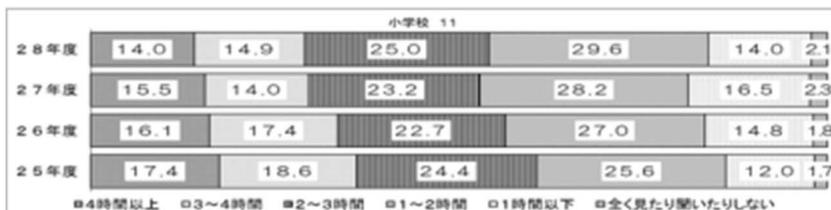


全国28年度(中)	0.9	6.2	29.8	41.6	21.5
-----------	-----	-----	------	------	------

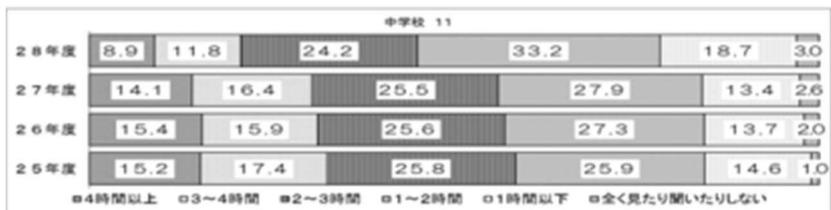
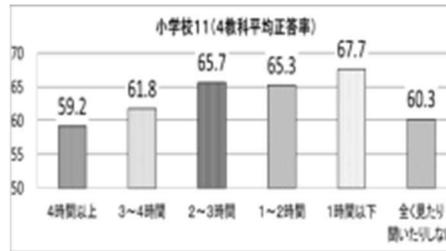


- ・ 小学校においては、11時以降に寝る児童の割合が、平成19年度より減少し、午後9時から11時の間に就寝する割合が多い。
- ・ 中学校においては、午前0時以降に寝る生徒の割合が、平成19年度より減少し、午後10時から午前0時の間に就寝する割合が多い。
- ・ 小中とも、午前0時以降に寝る児童・生徒の平均正答率は低い傾向がある。

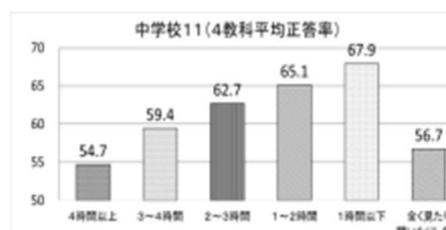
○ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）。



全国28年度(小)	16.0	16.8	24.3	26.9	13.9	2.0
-----------	------	------	------	------	------	-----

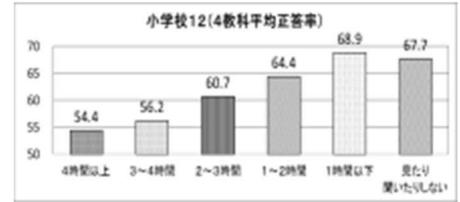
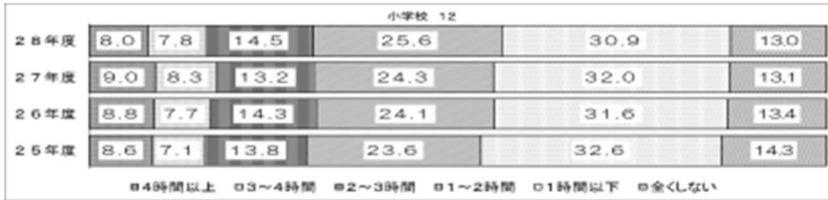


全国28年度(中)	10.7	13.4	24.6	30.6	18.2	2.3
-----------	------	------	------	------	------	-----

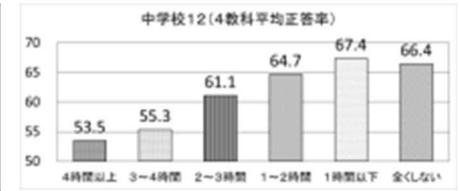
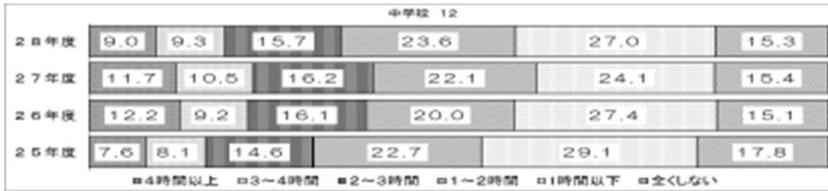


- ・ 小学校においては、テレビ等を見る時間が3時間以上の割合が減少している。
- ・ 中学校においては、テレビ等を見る時間が2時間以上の割合が大きく減少している。
- ・ テレビ等を見る時間が長くなると、平均正答率が低下する傾向がみられる。テレビ等を全く見ない児童・生徒の平均正答率があまり高くない要因として、近年、携帯電話のメールやインターネットを使用する割合が増加傾向にあり、テレビを全く見ない児童・生徒が、メールやインターネットを使用している場合が考えられる。

○ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



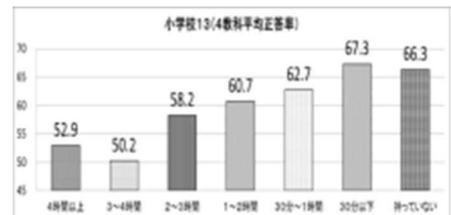
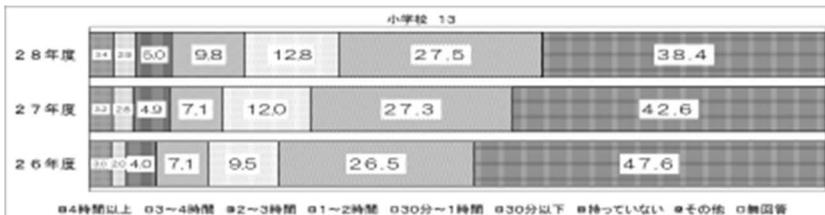
全国28年度(小)	8.2	7.8	13.7	25.3	31.1	14.0
-----------	-----	-----	------	------	------	------



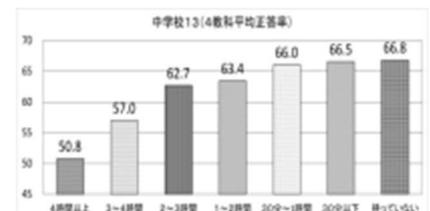
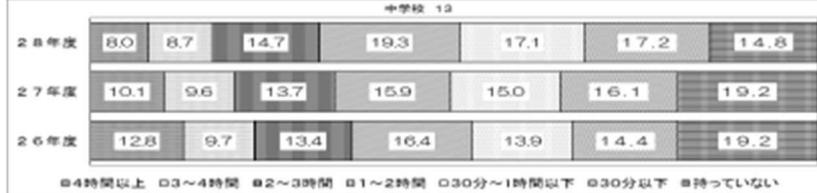
全国28年度(中)	9.7	9.2	16.0	22.2	26.3	16.6
-----------	-----	-----	------	------	------	------

- ・ 小学校においては、テレビゲーム等をする時間の長さの割合は、大きな変化は見られない。
- ・ 中学校においては、テレビゲーム等をする時間が1時間以上の割合が増加傾向にあったが、平成28年度は、やや改善傾向にある。
- ・ テレビゲーム等をする時間の長さで平均正答率は大きく相関があり、特に1時間を超えると平均正答率は急激に下がる。

○ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）。



全国28年度(小)	3.0	2.8	4.6	8.1	11.9	30.7	38.9
-----------	-----	-----	-----	-----	------	------	------

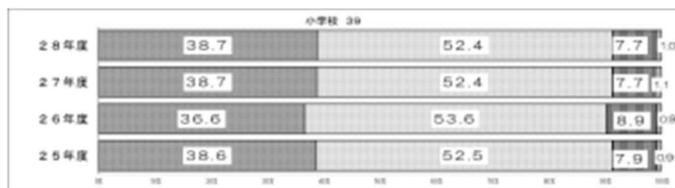


全国28年度(中)	8.6	8.0	13.5	17.7	15.6	17.5	18.8
-----------	-----	-----	------	------	------	------	------

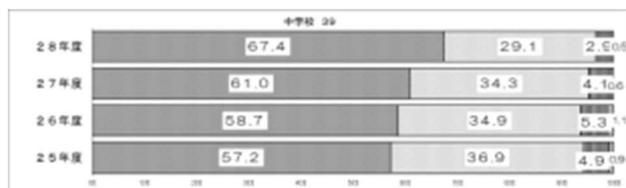
- ・ 小学校においては、携帯電話を持っている児童の割合が増加傾向にあるが、使用時間については、1時間以上2時間以下の使用の割合が増加傾向にある。
- ・ 中学校においても、携帯電話を持っている生徒の割合が増加傾向にあるが、使用時間については、2時間以上の使用する割合が減少し、30分以上2時間以下の割合が増加している。
- ・ 携帯電話等を使用する時間の長さで平均正答率は大きく関係しており、特に1時間を超えると平均正答率は急激に下がる。

⑦ 規範意識

○ 学校のきまり・規則を守っていますか。



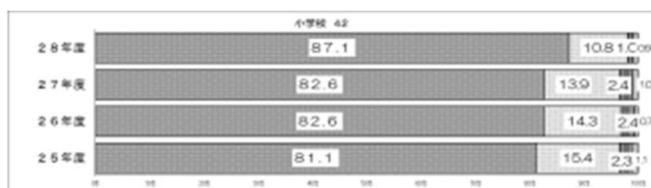
全国28年度(小) 42.9 48.6 7.3 1.1



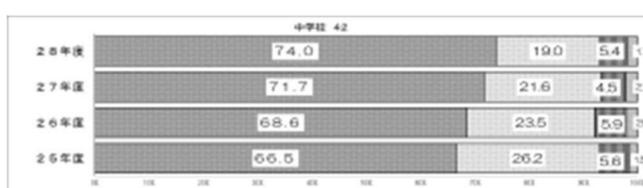
全国28年度(中) 61.6 33.1 4.2 1.0

- ・ 小学校においては、あまり変化はみられない。平成28年度は全国と比べると、肯定的回答はほぼ同等であるが、肯定回答は約5ポイント低い。
- ・ 中学校においては、肯定回答の割合が増加傾向にあり、平成28年度は全国と比べると、肯定回答は約6ポイント高い。

○ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



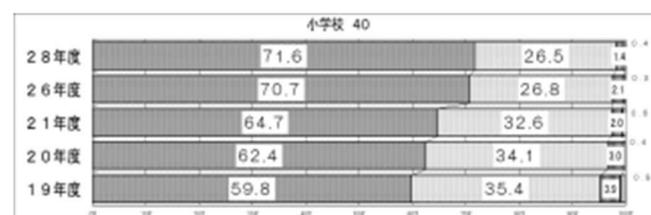
全国28年度(小) 83.1 13.5 2.4 1.0



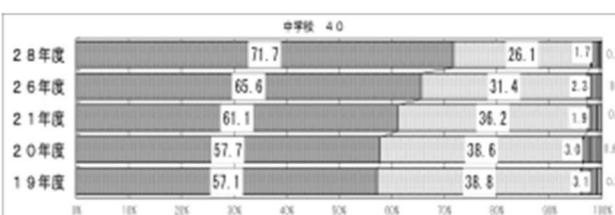
全国28年度(中) 74.8 18.8 4.5 1.9

- ・ 小中とも肯定回答の割合が増加傾向にあり、小学校においては、平成28年度の全国と比べても肯定回答は4ポイント高い。

○ 友達との約束を守っていますか。【復活】



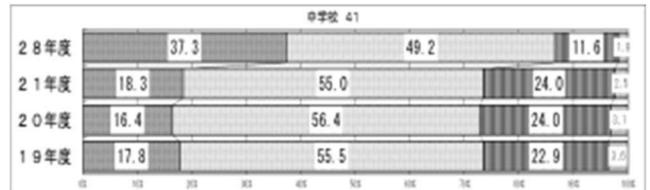
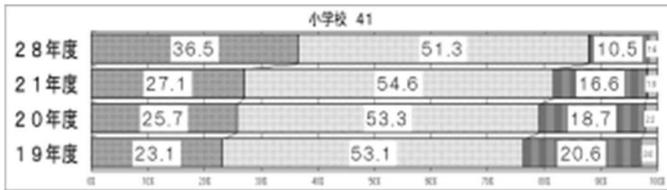
全国28年度(小) 68.9 28.3 2.2 0.5



全国28年度(中) 68.5 28.7 2.2 0.6

- ・ 小中とも肯定回答の割合が増加傾向にあり、平成19年度と比較すると、小学校では約12ポイント、中学校においては約14ポイント増加している。
- ・ 平成28年度の全国と比較すると、小中とも肯定的回答は全国と同等であるが、肯定回答は約4ポイント高い。

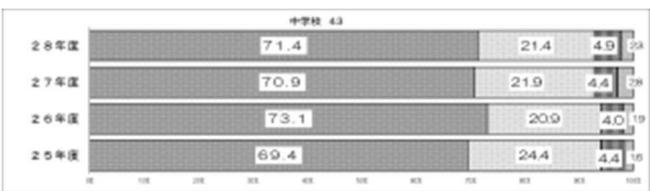
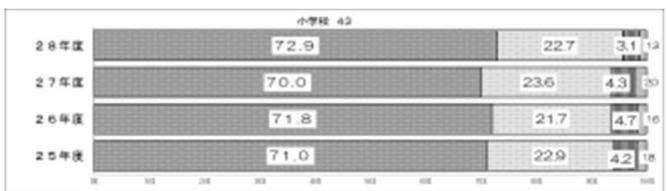
○ 人が困っているときは進んで助けていますか。【復活】



全国28年度(小)	37.0	47.6	13.0	2.3	全国28年度(中)	34.1	49.7	13.6	2.4
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

- ・ 平成19年度と比較すると、肯定回答の割合が、小学校では約13ポイント、中学校においては約19ポイント増加している。
- ・ 平成28年度の全国と比較すると、肯定的回答の割合は、小中とも約3ポイント上回っている。

○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

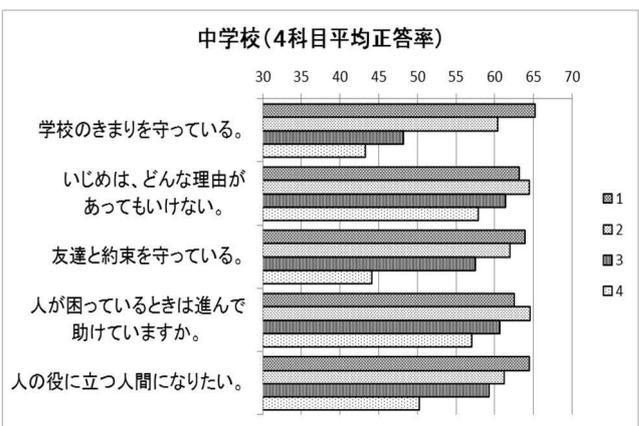
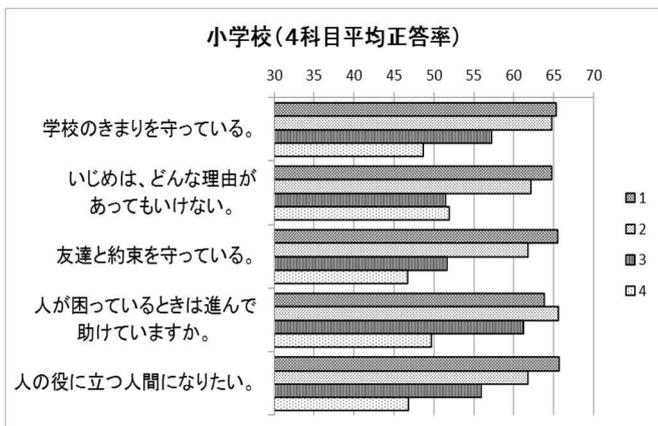


全国28年度(小)	71.2	22.6	4.2	1.9	全国28年度(中)	69.3	23.5	4.8	2.3
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	-----	-----

- ・ 小中とも肯定的回答の割合は、毎年あまり変化はみられない。
- ・ 平成28年度の全国と比較しても、肯定的回答はほぼ同等である。

<学力との相関>

- ・ 肯定的回答をした児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がある。
- ・ 中学校において、「学校の規則を守っている」と肯定的回答をした生徒と否定的回答をした生徒の平均正答率の差が大きい。



1 ■ 当てはまる 2 ▨ どちらかといえば、当てはまる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 □ 当てはまらない

⑧ 自尊感情

○ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



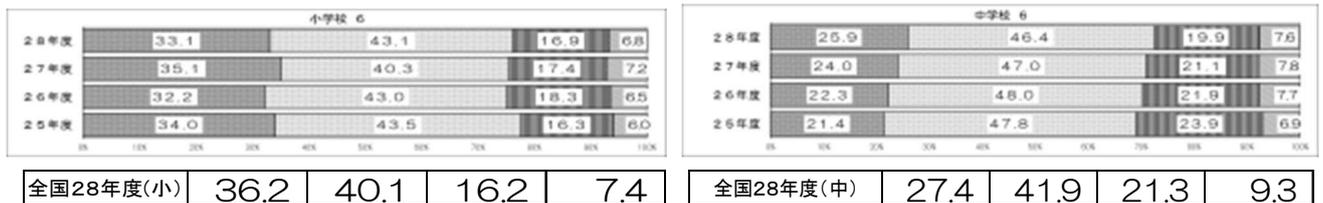
- ・ 小中とも肯定的回答の割合が、毎年ほぼ大きな変化はみられない。
- ・ 平成28年度の全国と比較では、小中とも肯定的回答はほぼ同等である。

○ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。



- ・ 小中とも肯定的回答の割合は、増加傾向にある。
- ・ 平成28年度の全国と比較では、小中とも肯定的回答はほぼ同等である。

○ 自分には、よいところがあると思いますか。



- ・ 小学校においては、毎年ほぼ大きな変化はみられないが、中学校においては、肯定回答の割合が増加傾向にある。
- ・ 小中とも平成28年度の肯定的回答の割合は、全国とほぼ同等である。

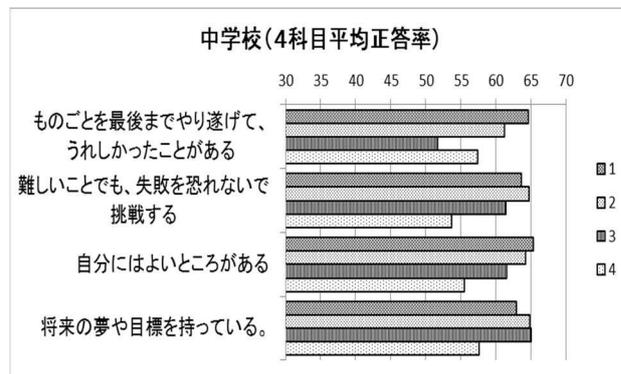
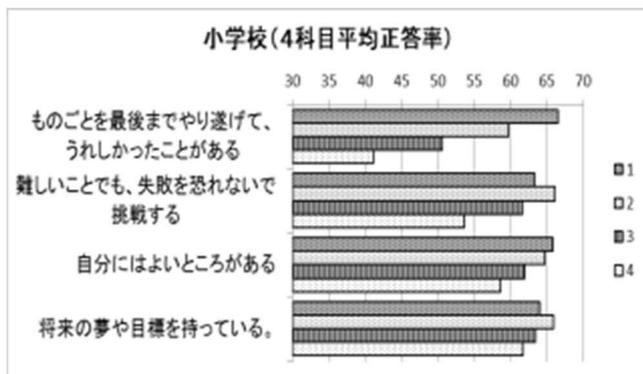
○ 将来の夢や目標を持っていますか。



- ・ 小学校においては、肯定的回答がやや減少傾向であり、平成28年度の全国と比較すると、約4ポイント下回っている。
- ・ 中学校においては、肯定的回答の割合は、あまり変化はみられない。平成28年度の全国と比較すると、ほぼ同等である。

<学力との相関>

- ・ 小学校においては、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と肯定的回答をした児童の方が、平均正答率が高い傾向にある。
- ・ 「自分にはよいところがある」と肯定的回答をした児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。

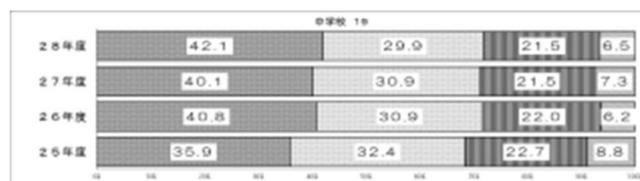
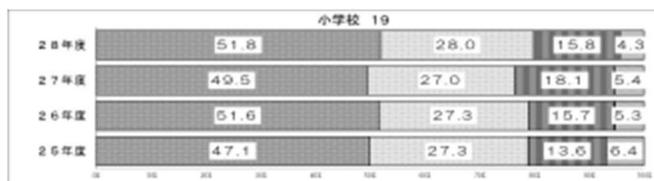


1 ■ 当てはまる 2 ■ どちらかといえば、当てはまる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 ■ 当てはまらない

⑨ 家庭・地域・社会との関わり

- ・ 小中とも「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の肯定的回答の割合が、年々増加傾向にある。
- ・ 小学校においては、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の平成28年度の肯定回答の割合が、全国より約7ポイント上回っている。

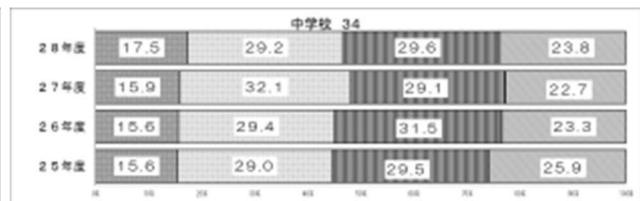
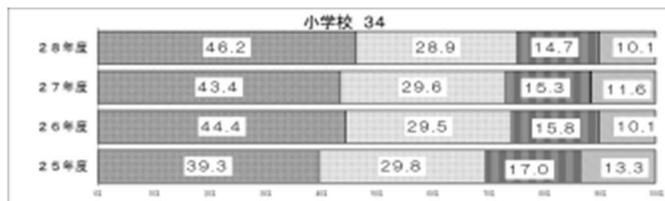
○ 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。



全国28年度(小) 52.4 26.8 16.1 4.5

全国28年度(中) 44.2 29.9 19.7 6.1

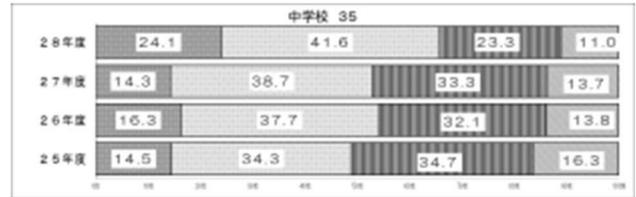
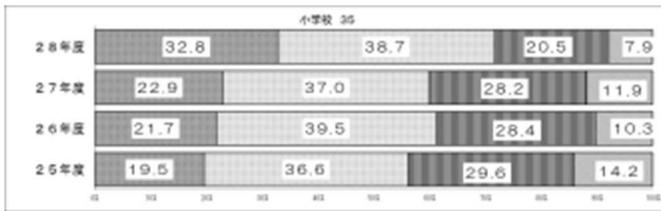
○ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



全国28年度(小) 39.1 28.8 18.0 14.0

全国28年度(中) 19.1 26.1 26.8 28.0

○ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

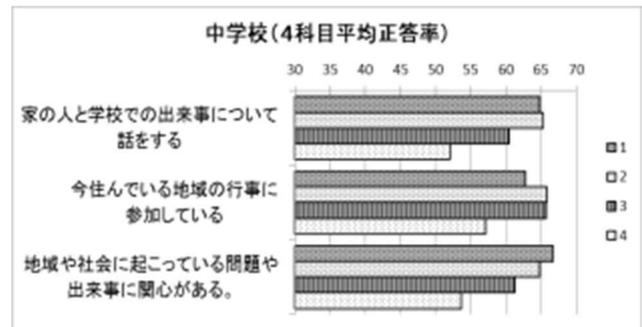
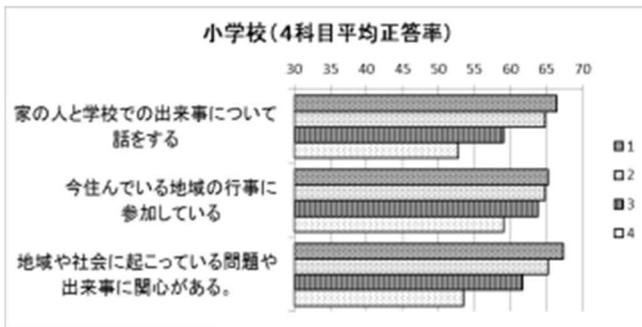


全国28年度(小)	33.3	37.3	20.3	8.9
-----------	------	------	------	-----

全国28年度(中)	26.7	39.1	22.7	11.4
-----------	------	------	------	------

<学力との相関>

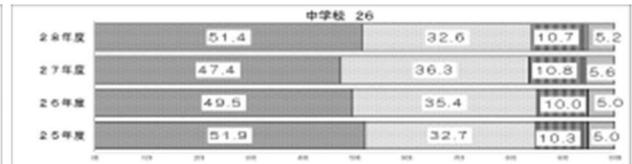
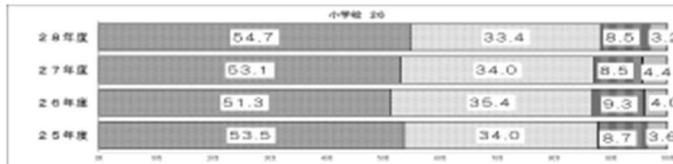
- ・ 小学校においては、肯定的回答をした児童の方が、平均正答率が高い傾向にある。
- ・ 中学校においては、「地域や社会に起こっている問題や出来事に関心がある」と肯定的回答をした生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。



1 ■ 当てる 2 ■ どちらかといえば、当てる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 ■ 当てはまらない

⑩ 学校生活等

○ 学校に行くのは楽しいと思いますか。

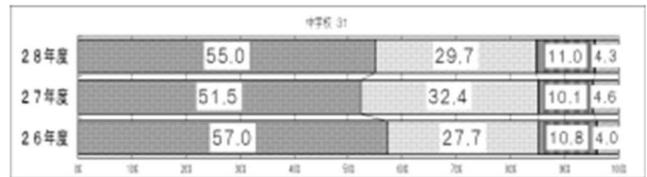
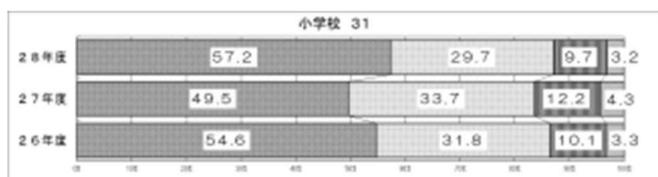


全国28年度(小)	55.2	31.1	9.3	4.3
-----------	------	------	-----	-----

全国28年度(中)	48.4	33.0	12.0	6.6
-----------	------	------	------	-----

- ・ 小中とも、肯定的回答の割合は、毎年大きな変化はみられない。
- ・ 中学校においては、平成28年度の全国と比較すると、肯定的回答の割合が、約7ポイント高い。

○ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

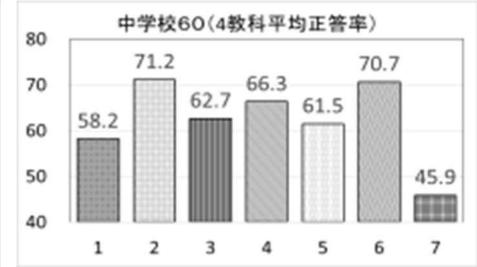
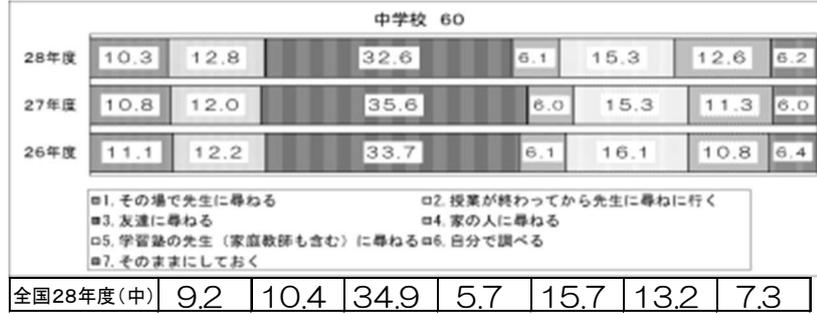
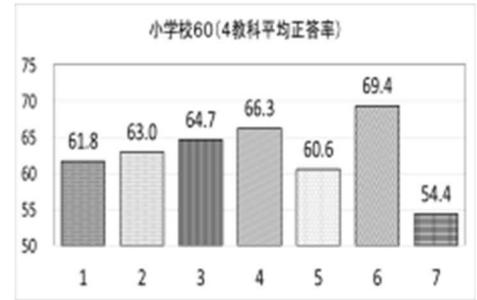
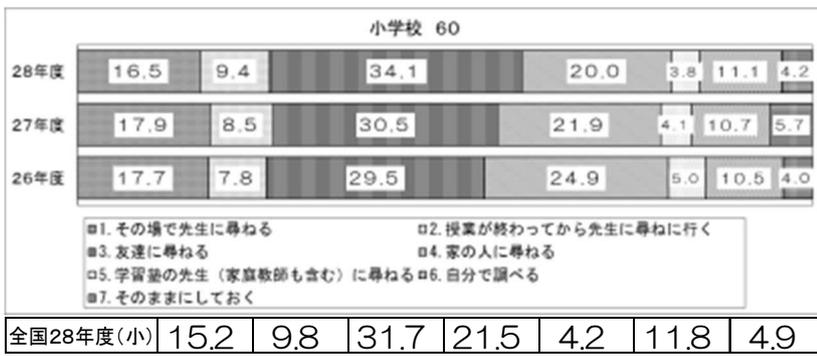


全国28年度(小)	58.5	27.8	10.0	3.6
-----------	------	------	------	-----

全国28年度(中)	57.9	26.3	10.4	5.3
-----------	------	------	------	-----

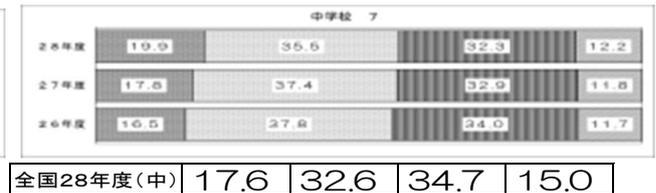
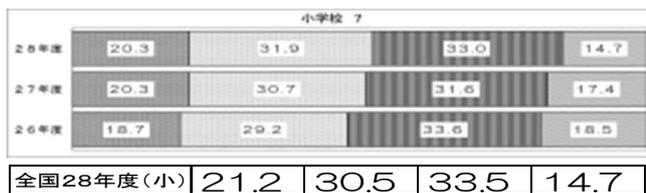
- ・ 小中とも、平成28年度の全国と比較すると、肯定的回答の割合はほぼ同等である。

○ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



- ・ 小学校では、「友達に尋ねる」児童の割合が増加傾向にある。
- ・ 中学校では、「自分で調べる」生徒の割合が増加傾向にある。
- ・ 小中とも「自分で調べる」と回答した児童・生徒の平均正答率が高く、「そのままにしておく」と回答した児童・生徒の平均生徒正答率が低い傾向がみられる。

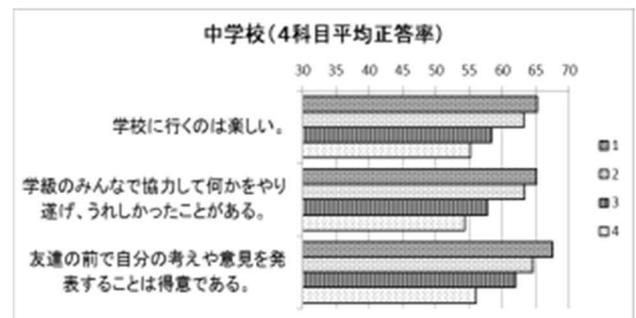
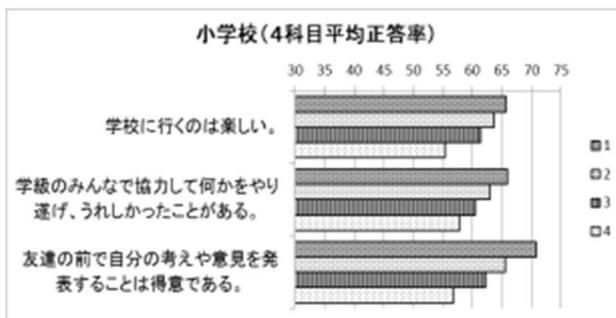
○ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



- ・ 小中とも肯定的回答の割合は、毎年増加傾向である。
- ・ 平成28年度の全国と比較すると、小学校では、肯定的回答はほぼ同等であるが、中学校においては、約5ポイント高い。

<学力との相関>

- ・ 肯定的回答をした児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
- ・ 「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」と肯定回答をした児童・生徒は、平均正答率が高い傾向にある。



1 ■ 当てはまる 2 ■ どちらかといえば、当てはまる 3 ■ どちらかといえば、当てはまらない 4 ■ 当てはまらない

(2) 児童・生徒質問紙と学校質問紙の比較

児童・生徒と教師の間で「めあて」「振り返り」の意識の差はみられるが、全国との意識の差は縮まっている。また、前年度より児童・生徒質問紙の肯定的回答が増えており、授業改善の成果の一端がみられる。子どもが「今、何を学習しているのか」「今日は何を学べたのか」がしっかり自覚でき、充実味の味わえる授業となるように引き続き取り組みを進めたい。

1 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。

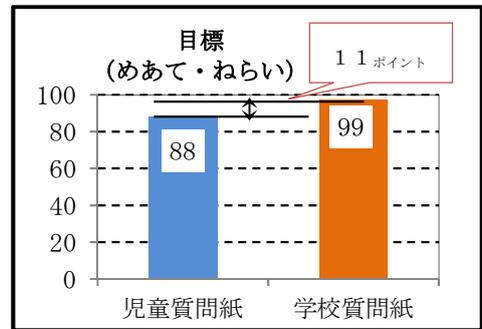
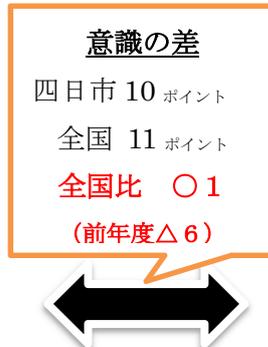
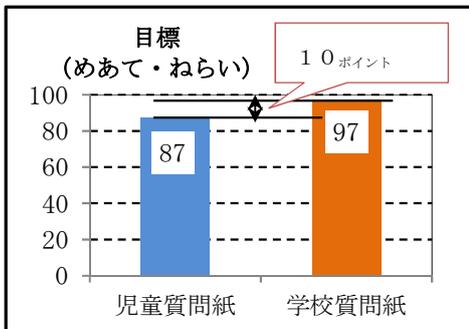
※本年度は「授業の冒頭で」から「授業の中で」に文言が変更

※記号は、○優位 △劣位 を示す。

● 小学校

<四日市>

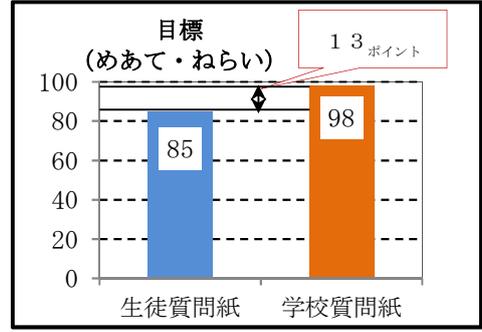
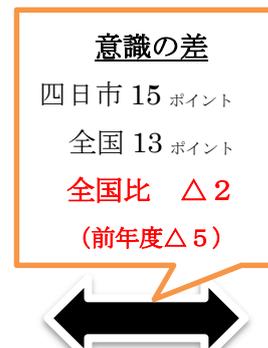
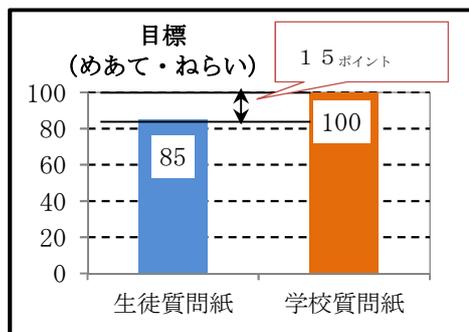
<全国>



● 中学校

<四日市>

<全国>

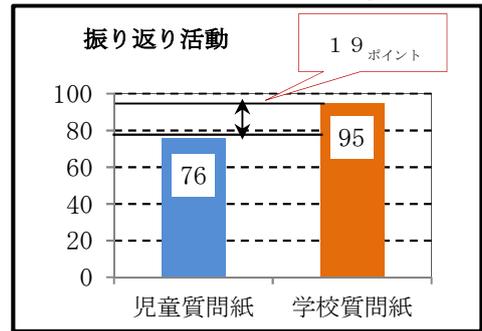
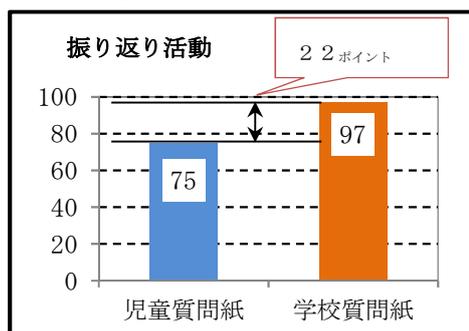


2 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。

● 小学校

<四日市>

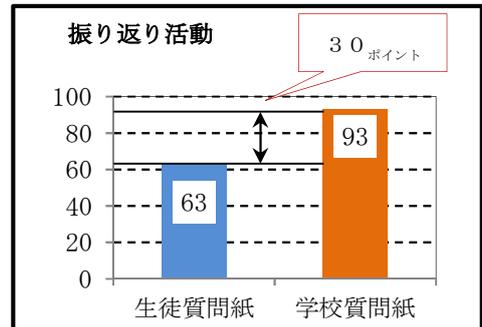
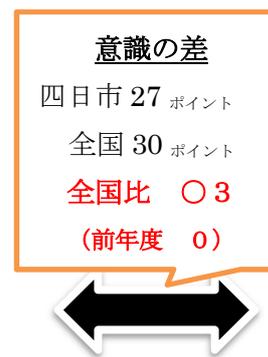
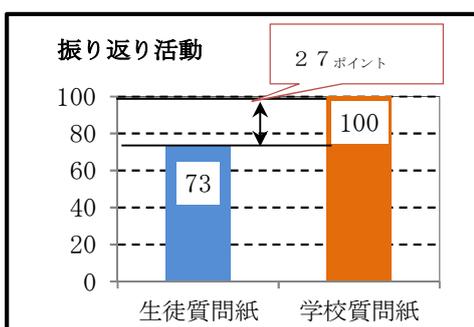
<全国>



● 中学校

<四日市>

<全国>



(3) 学校質問紙の4年間の経年変化と回答状況

① 指導方法等

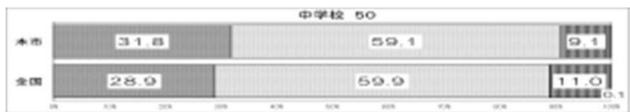
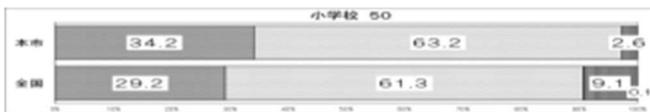
- 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」については、平成28年度の全国と比較すると、肯定回答の割合が低い。
- 「道徳の時間において、児童・生徒自らが考え、話し合う指導をしましたか」については、平成28年度の全国と比較すると、肯定回答の割合が高い。
- 「学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」については、小学校では大きな変化はみられない。中学校では、肯定回答の割合が、この3年間減少傾向にある。
- 「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」「資料を使って発表ができるように指導しましたか」「自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導をしましたか」の項目については、肯定的回答の割合が年々増加傾向にある。
- 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか」については、中学校で否定的回答の割合が平成28年度の全国と比べて高い。

○ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

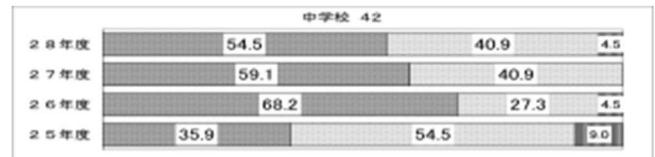
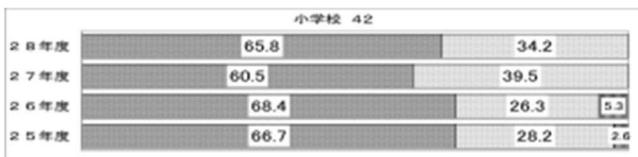
【新規】



○ 道徳の時間において、児童・生徒自らが考え、話し合う指導をしましたか。【新規】

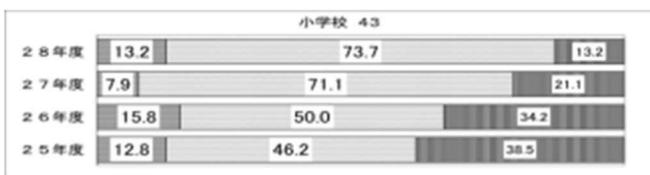


○ 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか。



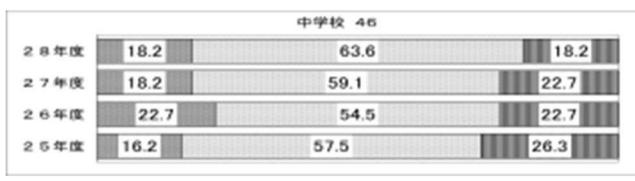
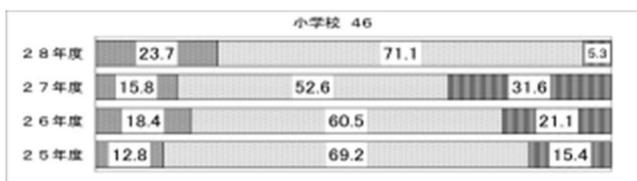
全国28年度(小)	53.6	42.9	3.2	0.1	全国28年度(中)	39.3	53.6	6.8	0.2
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	-----	-----

○ 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。



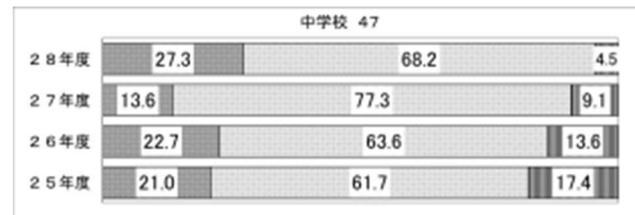
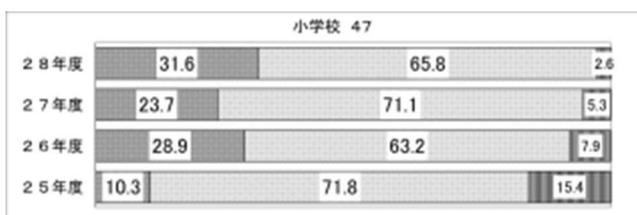
全国28年度(小)	25.4	58.3	15.9	0.1	全国28年度(中)	29.3	53.7	16.6	0.3
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 資料を使って発表ができるように指導しましたか。



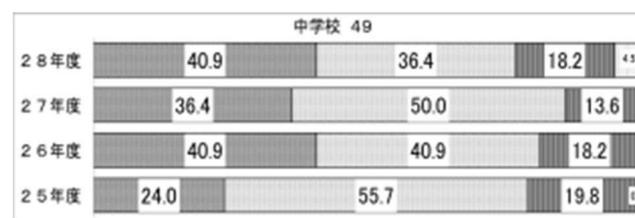
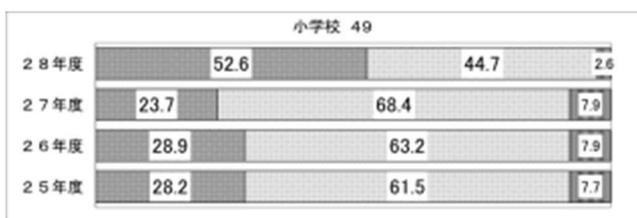
全国28年度(小)	27.9	62.6	9.3	0.1	全国28年度(中)	21.2	63.6	15.0	0.1
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導をしましたか。



全国28年度(小)	29.9	64.0	5.9	0.0	全国28年度(中)	24.4	66.9	8.5	0.0
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	-----	-----

○ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。

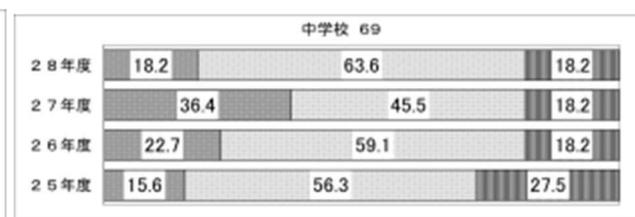
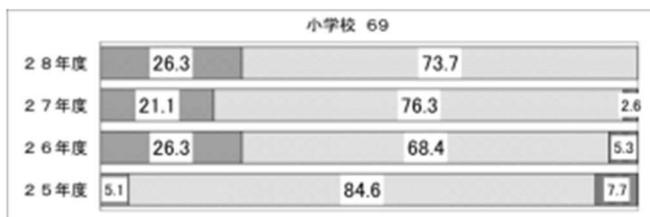


全国28年度(小)	33.7	56.8	9.1	0.2	全国28年度(中)	29.9	55.4	14.4	0.3
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	------	-----

② 国語の指導方法

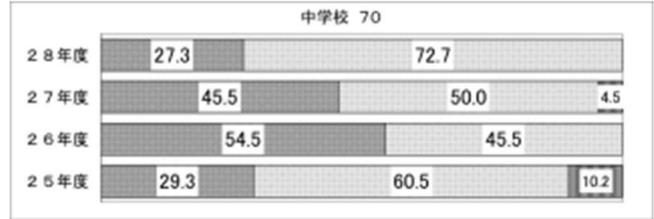
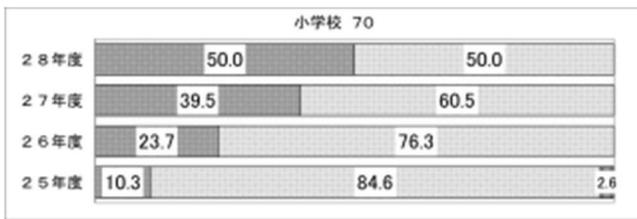
- 小学校では、「書く習慣を付ける授業を行いましたか」の肯定回答の割合が、年々増加傾向にあり、平成28年度全国と比べても約27ポイント高い。また、「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか」の肯定的回答の割合も年々増加傾向にある。
- 中学校においては、すべての項目において、平成25年度より肯定回答の割合が増加傾向にあるが、平成28年度はやや減少している傾向がみられる。

○ 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



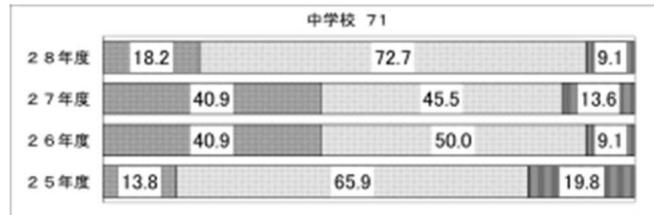
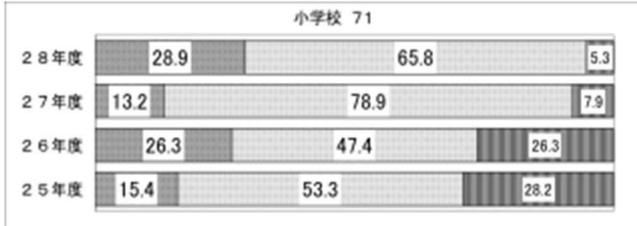
全国28年度(小)	23.2	67.7	8.7	0.1	全国28年度(中)	22.4	63.7	13.6	0.1
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 書く習慣を付ける授業を行いましたか。



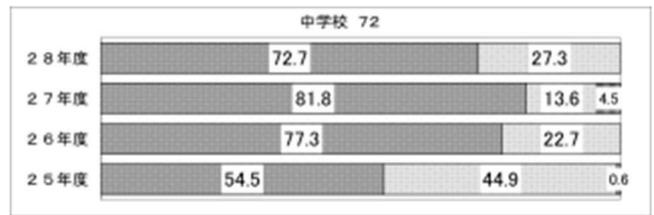
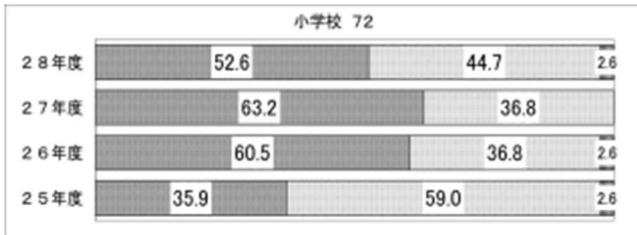
全国28年度(小)	32.6	60.2	6.9	0.1	全国28年度(中)	40.1	55.1	4.6	0.1
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	-----	-----

○ 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。



全国28年度(小)	23.3	64.1	12.3	0.1	全国28年度(中)	26.8	61.9	11.0	0.1
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。

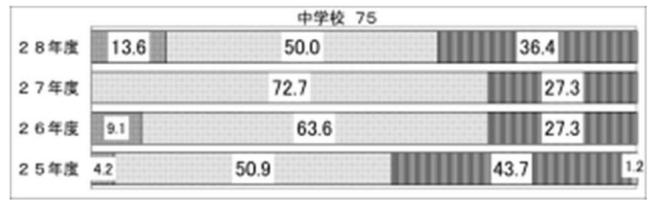


全国28年度(小)	52.3	45.7	1.7	0.0	全国28年度(中)	60.3	38.1	1.4	0.0
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	-----	-----

③ 算数・数学の指導方法

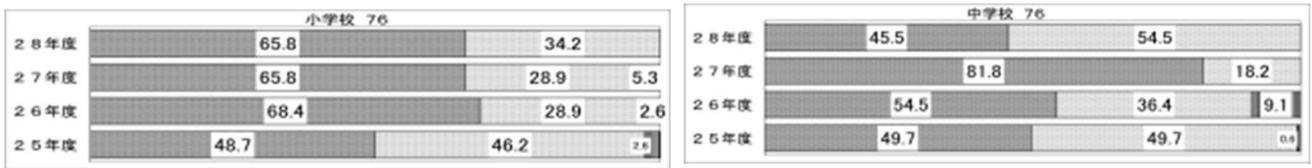
- 「実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」について、小学校においては肯定的回答の割合が年々増加傾向にあり、中学校においては、肯定回答の割合が増加しているが、肯定的回答の割合が平成28年度は減少している。
- 「計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか」については、平成28年度の全国と比べると、小学校においては約8ポイント高く、中学校においては約10ポイント低い。

○ 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



全国28年度(小)	11.4	62.7	25.3	0.4	全国28年度(中)	10.2	59.0	29.9	0.8
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。

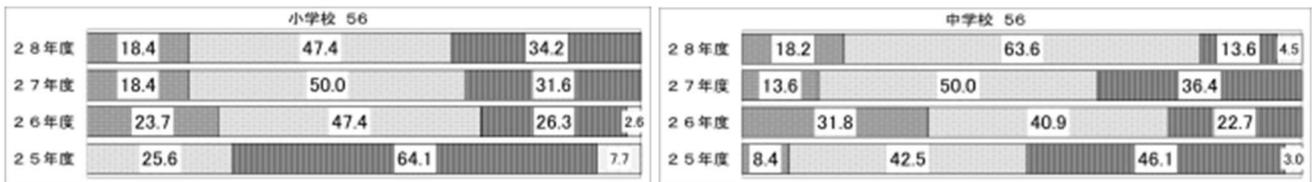


全国28年度(小)	58.0	39.7	2.0	0.0	全国28年度(中)	55.9	40.8	3.1	0.1
-----------	------	------	-----	-----	-----------	------	------	-----	-----

④ コンピュータ等を活用した教育

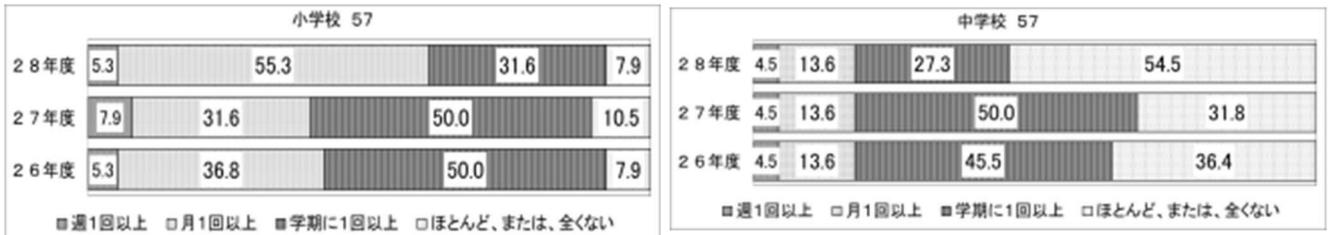
- ・ 国語科の活用状況は、小学校は、「月1回以上活用する」と回答した割合が増加している。中学校では、「ほとんど、または、全く活用しない」と回答した割合が増加しており、全国と比べても高い。
- ・ 算数・数学科の活用状況は、小中とも「週1回以上活用している」と回答した割合は、年々高くなってきており、全国より高い。

○ コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか。



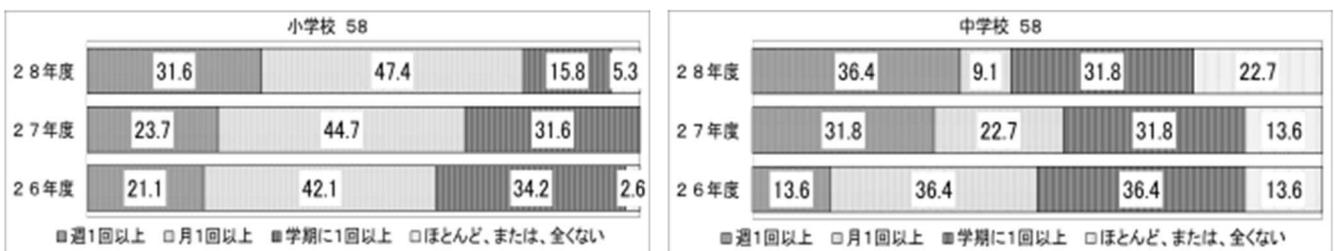
全国28年度(小)	16.7	51.7	29.8	1.6	全国28年度(中)	11.4	45.3	40.6	2.6
-----------	------	------	------	-----	-----------	------	------	------	-----

○ 国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか。



全国28年度(小)	15.6	27.1	41.9	15.3	全国28年度(中)	5.9	14.3	39.3	40.3
-----------	------	------	------	------	-----------	-----	------	------	------

○ 算数・数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか。

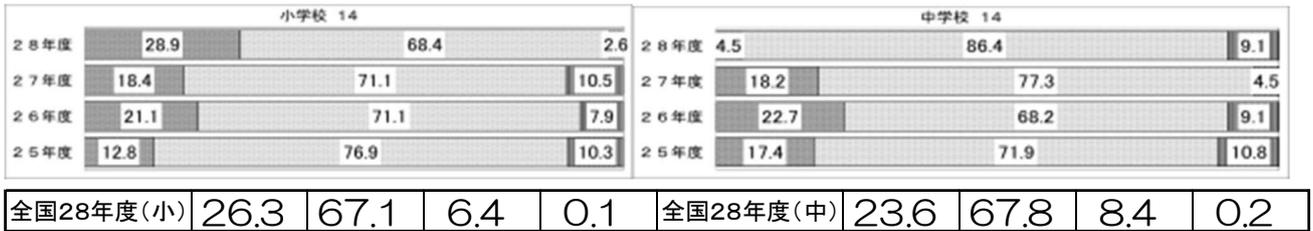


全国28年度(小)	25.2	25.8	31.4	17.5	全国28年度(中)	13.9	17.7	34.8	33.4
-----------	------	------	------	------	-----------	------	------	------	------

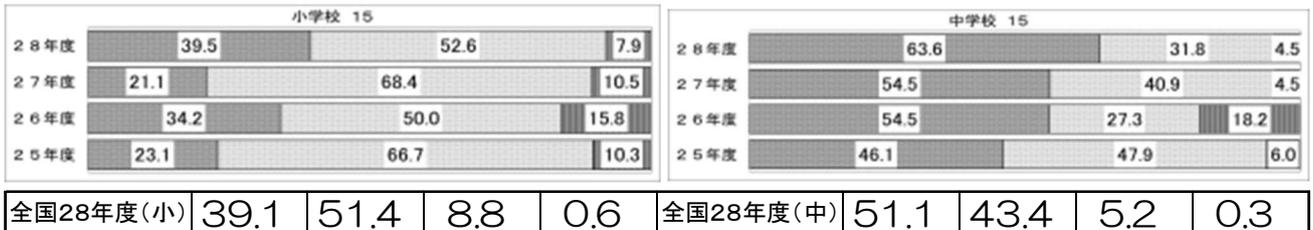
⑤ 規範意識

- ・ 小学校においては、すべての項目において、肯定的回答は増加傾向にあるが、肯定回答については、年度によって変動が大きい。平成28年度の全国と比較すると、「礼儀正しいか」については、肯定回答の割合が低い。
- ・ 中学校においては、「授業中の私語が少なく落ち着いているか」の肯定回答の割合は、増加傾向にあり、平成28年度の全国と比較しても約12ポイント上回っている。「熱意をもって勉強しているか」「礼儀正しいか」については、肯定回答の割合が、平成28年度の全国と比較すると下回っているが、否定的回答は全くない。

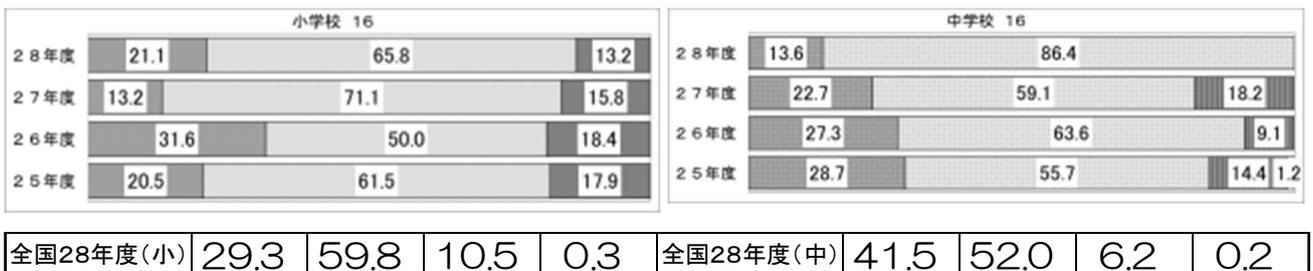
○ 調査対象学年の児童・生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか



○ 調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。



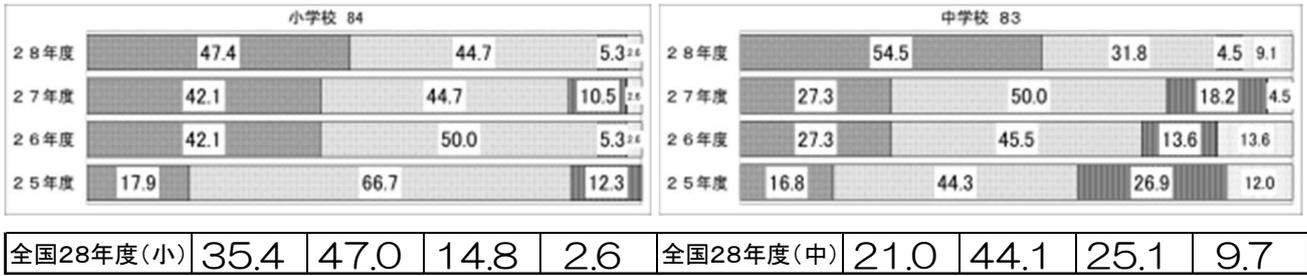
○ 調査対象学年の児童・生徒は、礼儀正しいと思いますか。



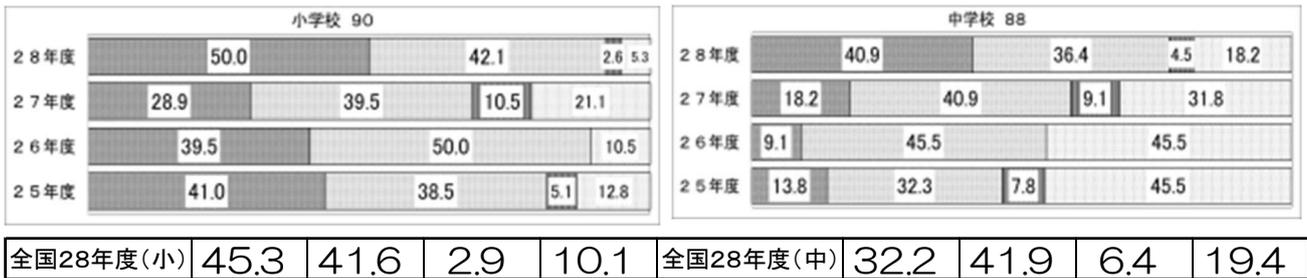
⑥ 地域人材の活用

- ・ 小中とも、地域人材の活用や保護者・地域と連携した教育活動については、肯定回答の割合が、年々増加している。
- ・ 小中とも、平成28年度の全国と比較しても、肯定回答の割合は大きく上回っている。

- 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。



- 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか。



⑦ カリキュラムマネジメント

- 小学校においては、全国と比較すると、指導計画を知識・技能の活用に重点を置いて作成したり、教科横断的な視点で教育の内容を組織的な配列したり、教育課程表を、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成したりすることについて、肯定回答の割合が低い。
- 中学校においては、全国と比較すると、指導計画を知識・技能の活用や言語活動を重点に置いて作成することについて、肯定回答の割合が低い。

※肯定回答の割合

番号	調査項目	種別	本市	全国
(28)	指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いて作成していますか	小	7.9	18.8
		中	13.6	19.8
(29)	指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していますか	小	26.3	30.5
		中	18.2	25.3
(30)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	小	7.9	19.4
		中	22.7	15.8
(31)	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	小	10.5	24.5
		中	18.2	20.8
(32)	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、指導事項の系統性が分かるように作成していますか	小	21.1	21.7
		中	22.7	20.6
(33)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	小	26.3	26.2
		中	27.3	23.2
(34)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	小	39.5	31.7
		中	18.2	16.3

(4) 学力向上に関する全市的な取り組み状況

四日市市の全小中学校では、子どもたちの学力向上のため、平成25年1月から「学力向上のための4つの取り組み」を推進している。

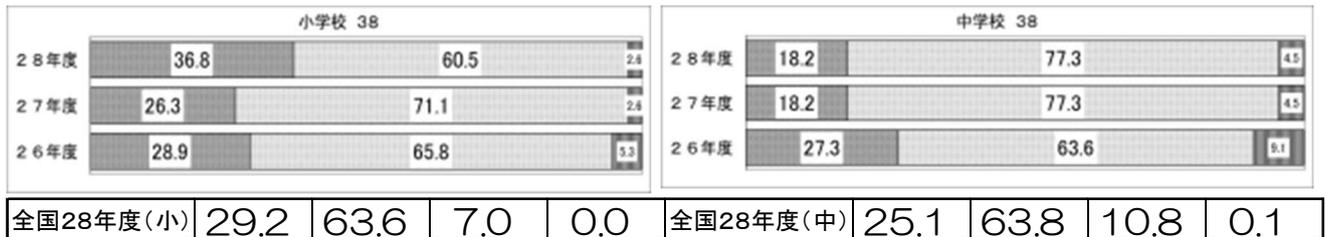
【取り組み1】全国学力・学習状況調査問題の活用

※肯定回答の割合

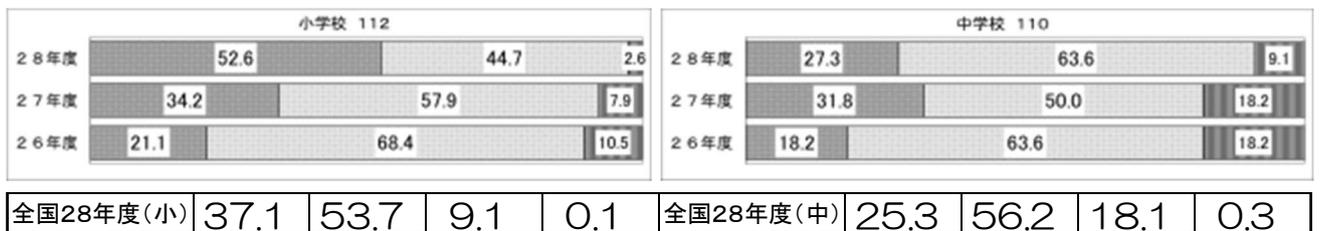
番号	調査項目	種別	本市	全国
(59)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか	小	60.5	55.3
		中	50.0	45.2
(60)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	小	57.9	46.2
		中	50.0	37.1
(63)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	小	65.8	34.7
		中	68.2	27.6

【取り組み2】全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善

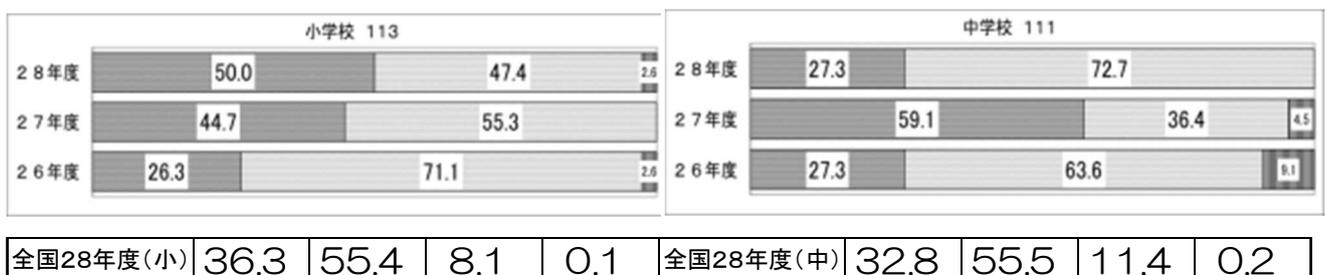
○ 各教科等の指導のねらいを明確にしたうえで、言語活動を適切に位置づけましたか。



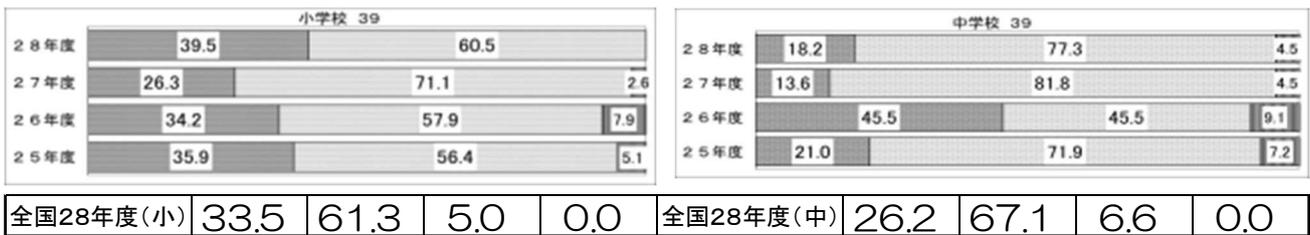
○ 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。



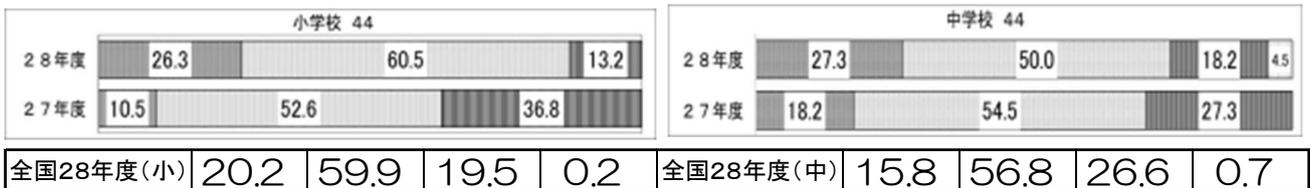
○ 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動（小のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。



○ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。



○ 授業において、児童・生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。



【取り組み3】学習習慣の確立と学習補充の充実

<家庭学習の定着>

※肯定回答の割合

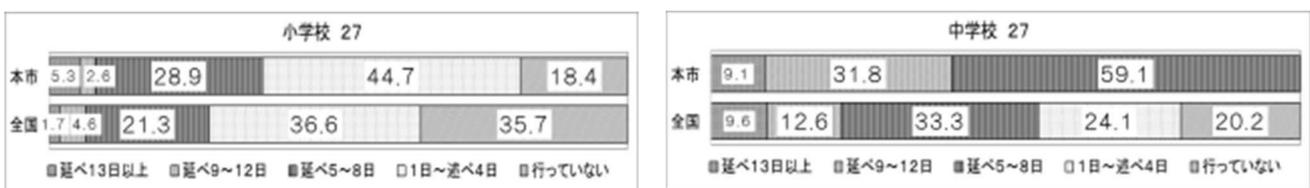
番号	調査項目	種別	本市	全国
(96)	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	小	71.1	55.8
(94)		中	27.3	36.0
(97)	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。	小	63.2	43.7
(95)		中	36.4	33.2
(98)	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。	小	34.2	25.3
(96)		中	18.2	15.0
(99)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。	小	50.0	40.1
(97)		中	27.3	29.9

<補充学習の充実>

○ 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。



○ 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか（実施した日数の累計）。



<保護者・地域への働きかけ>

※肯定回答の割合

番号	調査項目	種別	本市	全国
(61)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	小	44.7	34.3
		中	45.5	31.4
(62)	平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか	小	23.7	25.2
		中	27.3	20.2

【取り組み4】 継続的な学びへの取組

※肯定回答の割合

番号	調査項目	種別	本市	全国
(79)	前年度までに、近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行いましたか	小	55.3	19.8
(78)		中	54.5	27.1
(80)	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	小	76.3	23.0
(79)		中	68.2	34.1
(81)	前年度までに、近隣等の中学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか	小	73.7	29.6
(80)		中	72.7	40.0
(82)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	小	57.9	13.4
(81)		中	36.4	19.2
(83)	平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	小	57.9	14.0
(82)		中	40.9	18.2

<考察>

平成25年度1月からスタートした「学力向上のための4つの取り組み」の継続により、どの取り組みにおいても一定の成果が見られる。

【取り組み1】「全国学力・学習状況調査問題の活用」

自校の結果分析したり、校内研修会で全教職員が問題を解いたりするなど、学校全体で教育活動を改善するための活用が進んでいる。

【取り組み2】「全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善」

「言語に関する能力」と「知識・技能を活用する力」の育成を目指して取り組みを進めている。小学校においては、肯定回答の割合が増加している傾向があるが、中学校においては、やや減少傾向にある。教職員間で言語活動について、日常を通して話し合ったり、検討したりして、全ての教科等の活動を通して、学校全体で意図的・計画的に取り組んでいきたい。

【取り組み3】「学習習慣の確立と学習補充の充実」

全国と比較すると、小学校においては家庭学習、中学校においては補充学習の取り組みが充実してきている。

【取り組み4】「小中連携」

どの項目も肯定回答の割合が、全国より大きく上回っている。平成18年度から全中学校区で学びの一体化として幼保小中が連携し、「確かな学力」「健やかな成長」をめざす取り組みを継続的に行ってきた成果と言える。

(5) 各質問紙の回答からみえてくる課題とその対応

○ 学習時間帯・家庭学習 (P 24～P 26)

- ※ 家庭での生活習慣と学力向上とは関連が大きいことが改めて明らかとなった。
 - ・ 「P 49 取り組み3 学習習慣の確立」に基づき、保護者と連携した取り組みの一層の充実に努めたい。特に、自主学习ノート等を取り入れたり、発展的な課題・授業と関連した課題を取り入れたりしている学校が成果を上げていることから、家庭学習の内容についても、各校で工夫を図りたい。

○ 主体的・対話的で深い学びの視点 (P 38)

- ※ 学校質問紙「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善」や「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導」の肯定回答の割合は全国よりも低くなっている。
 - ・ 新しい時代に求められる資質・能力を学校全体で共有し、授業改善を行っていく必要がある。

○ 学習方法に関する指導の充実 (P 21)

- ※ 小学校においては、「内容がよく分かる」「授業が好き」と肯定回答した児童の平均正答率をもっとも高い。
 - ・ 子どもたちが興味を持って取り組める課題設定や学習内容が実感を伴った理解となるような振り返り活動など、授業展開の工夫が必要である。「わかる」「できる」の実感が、自ら学ぶ意欲へとつながる。
- ※ 中学校においては、国語科では「考えの理由を分かるように気を付けて書く」「段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読む」と肯定回答した生徒、数学科では「解き方が分からないとき、諦めずいろいろな方法を考える」「公式やきまりのわけを理解する」と肯定回答した生徒の平均正答率をもっとも高い。
 - ・ 授業において、知識・技能の繰り返しの習得だけでなく、思考を伴う言語活動を充実するとともに、根拠や理由を考えるなど、深い学びができるような授業展開がより求められる。
 - ・ 小中ともに、学習意欲を高めるためにも、実生活における事象と関連を図った課題提示の工夫など、教室の学びと実社会とのつながりを意識させたい。

○ 授業のめあての提示と振り返り活動の徹底 (P 37)

- ※ 授業の中で目標を提示したり、振り返り活動をしたりすることについては、改善傾向がみられ、児童生徒と教師の間の意識の差が縮まってきている。
 - ・ 毎時間の授業で、児童・生徒がこの授業を通して「どんなことができるようになるのか」「どんなことがわかるのか」等、児童・生徒と教師が、互いに共有して取り組む必要がある。
 - ・ 授業の終わりに児童・生徒が自らの学習を振り返り、整理する時間をとることで、各自の理解の深化が図られることから、この活動時間が保証できるような授業展開をいつも意識したい。

○ テレビ、ビデオ等の視聴及びゲームの時間 (P 29、30)

※ テレビゲーム、テレビ、ビデオ、DVDなどに費やす時間は、小学校は全国と同程度であり、中学校は2時間以上視聴に費やす生徒の割合は全国より少ない。ゲーム等については、小中とも全国と同程度である。

- ・ ノー・テレビデーやノー・ゲームデー等設定したり、学習につながるテレビ番組等について情報発信することで、テレビの視聴をプラス効果としたりするなど、よりよい基本的な生活習慣の確立を図るよう求める。こうしたことは、家庭における家族でのコミュニケーションの時間となりうると考える。

○ 携帯電話・スマートフォンの使用時間 (P 30)

※ 携帯電話等の所有率は、小学校は全国とほぼ同等であり、中学校は全国よりやや高い。小中とも使用時間の長さは全国とほぼ同等である。

- ・ 青少年育成指導室による出前講座「e-ネット安心講座」、スマートフォン等ルールに関する資料(学校・園データベース参照)等を積極的に活用して、保護者も含めた情報モラル教育の充実を図る。
- ・ 家庭でのルールづくり等は、中学校区を含めて保護者との連携を図っていききたい。

○ 地域や社会への関心 (P 35、P 42、43)

※ 昨年度、課題として挙げられていた「地域や社会で起こっている問題や出来事に対する関心」は大きな改善がみられた。平成27年度と比較すると、小中ともに肯定回答が約10%上昇している。

※ 学校質問紙の「地域の人材を外部講師として招聘した授業」「保護者や地域の方と連携した教育活動等」についても肯定回答の割合が増加している。

- ・ 地域の人的・物的資源を活用したり、社会教育との連携を図ったりするためにも、今後も四日市版コミュニティスクールを推進するなど、学校と社会の連携を大切にしていきたい。
- ・ 次期学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。実生活に即した課題等を学習したり、地域や社会の出来事を身近に感じたり、学んだことが自分の暮らしに生きていくと実感できたりするような授業改善や道徳教育・キャリア教育等を中心に、全ての学校教育活動で自己と社会との関わりを意識するような取り組みを推進していく必要がある。

○ 学習環境 (P 31、42)

※ 「授業中の私語が少なく落ち着いている」と肯定回答する学校の割合は、小学校は、昨年度より改善され全国とほぼ同等であるが、年度によって変動が大きい。中学校は全国よりも大きく上回り、年々増加傾向である。児童質問紙「学校のきまりを守っていますか」についても、小学校より中学校の方が肯定回答の割合が高い。

- ・ 落ち着いた学習環境づくりについて、特に小学校での改善が求められる。
- ・ 児童・生徒の学習意欲や興味・関心を高め、課題や与えられた問題に対して粘り強く取り組む態度や姿勢を育てるためにも、授業規律の徹底を図るとともに、学習環境の改善等に努める必要がある。

4 今後の取り組みの重点

主として学校において

1 四日市市における学力向上の全市的な4つの取り組みの充実

① 【取り組み1】 本調査問題の活用

- 児童・生徒の活用だけでなく、全教職員が問題を解いたり、分析したりして、出題のねらい、指導事項との関連、児童・生徒の解答状況等把握することで指導改善に活かす。
- 問題の活用だけでなく、調査実施後、速やかに、児童・生徒の解答状況を把握・分析して指導改善を図る。

② 【取り組み2】 本調査趣旨等を踏まえた授業改善

- 実施該当学年や該当教科担当者だけでなく学校全体で、「言語に関する能力」と「知識・技能を活用する力」の育成を目指した指導改善に取り組む。

◆ 授業改善の事例

- ・ 知識・技能を活用する力の育成
 - 「問題解決能力の向上」のためのガイドブックや各種授業アイデア事例集を活用した実践 等
- ・ 言語に関する能力の育成
 - 読解力を高める授業の実践（例 文章を要約する）
 - 自分の考えを整理して書く・話す場面を設ける授業の実践 等
- 調査問題と調査結果分析を活用して、自校の強み・弱みを把握し授業改善を図る。



③ 【取り組み3】 学習習慣の確立と学力補充の充実

- 子どもの実態を把握し、家庭学習の定着と補充学習の充実に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の補充学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

④ 【取り組み4】 継続的な学びへの取り組み

- 学年間及び小中学校間が連携した取り組みを実施する。
 - ・ 学びの空白期間となる春季休業に着目し、継続的な学びを目指した取り組みを検討し、工夫する。

2 授業の目標・振り返り活動を取り入れた指導計画の徹底

- 全教科において教科の特性を踏まえたうえで、目標の提示、振り返り活動の工夫と徹底を図る。
 - ・ 子どもたちが問題意識を持ち、何を解決するのか、どのように解決するのかを見通しを持つことができるよう問題の出会い方を工夫する。
 - ・ 授業でつきたい力を明確にし、児童・生徒が、「何を学んだか」、「できるようになったのか」を、実感の伴う指導の徹底を図る。
 - ・ 学びの一体化の一層の推進を図り、発達段階に応じた指導方法や学び方を共有する。また、学習内容の系統性や子どもたちの家庭学習への取組方法等、異校種間での共通理解を図る。

3 家庭学習の充実

- 家庭学習の課題を工夫するとともに、子どもの取り組みに対して適切な評価を行い、学習の成果を子どもたちに実感させる。
- 児童・生徒が、学び方を学べるように、学習方法の具体例を挙げて指導する。
- 保護者に家庭学習の手引きやシラバスを示すなどの働きかけをする。

4 ノート指導の充実

- ノートの活用について、意味や使い方等を小学校の低学年から発達段階に応じて丁寧に指導する。
- 黒板を写すための記録という役割に留めず、学習過程を振り返ったり、課題解決に向けた自分自身の思考過程を視覚化したりするための学習支援としての役割を児童生徒に伝え、十分に活用する。
- 自分の考えやアイデア等を「書く」という活動を日常化し、それをもとに表現させるような指導の工夫を行う。

5 教科の特質を踏まえた言語活動を取り入れた授業の充実

- 特に国語科においては、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、子どもの実態に応じた様々な言語活動を工夫する。
- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組む。
- 論理的に思考する場、論理的に説明する場を多く設定する。
- 自分の考えの根拠を明確にさせる発問・課題を設定する。
- 文章（連続型テキスト）と図や写真（非連続型テキスト）を組み合わせたもの（雑誌等）を活用する。
- 自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現しあったりする学習活動の充実を図る。
- 自分の考えや意見を深めたり、広げたりするため、学級やグループで話し合う場面を多く設定する。

6 実社会や実生活とのつながりを意識した学習の充実（P51参照）

7 ICTの効果的な活用の工夫

- ICT機器の効果的な活用と同時に、誰にとってもわかりやすい授業を工夫して実践することで、すべての児童・生徒が学びに参加できたり、「わかる」を実感したりする授業づくりを行う。
- 自分の考えや意見を、根拠をもって説明したり、資料を使ってプレゼンテーションをしたりするための道具としてICT機器を活用して思考力・判断力・表現力等育成をねらいとした授業づくりを行う。

主として教育委員会事務局において

1 情報発信の充実

- 全国学力・学習状況調査にかかる本市調査結果の分析をホームページで公表する。
- 教職員対象の「学力向上研修会」を実施し、具体的な指導方法等について説明する。
- リーフレット「授業づくり ヒント&ポイント」を発行し、効果のある実践的な取り組みを発信する。
- 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」に基づく主体的・協働的な授業づくりを推進する。

2 学力向上にかかわる教育施策の整備

- 学校と連携した学力向上につながる教育施策の整備・改善・展開に努める。
 - ・到達度検査の実施 ・読書活動の推進 ・少人数指導の充実 ・四日市版コミュニティースクールの推進
 - ・幼・保・小・中が連携した学びの一体化事業の推進（および、教育実践研究推進校区の指定）等
- 「四日市市学力向上アクションプラン」（平成28年6月）に基づき、確かな学力定着のための授業改革、思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実等に努める。

3 学校への指導・助言の充実

- 学校への要請訪問において指導・助言を行う。

4 教職員研修の充実

- 今日的教育課題に対応した教職員研修を企画・実施し、教職員の指導力・授業力等資質・能力の向上を図る。

5 三重県教育委員会との連携

- 三重県教育委員会HPのワークシートの活用を促進する。
- みえスタディチェックの自校採点・結果分析等を授業改善に生かすよう働きかける。

実社会や実生活とのつながりを意識した学習の充実

知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子どもたちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるような学習の展開をめざす。

1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着

○ 実態把握 ⇒ 指導計画の確立 ⇒ 指導方法の工夫 ⇒ 家庭学習の充実

- (1) 体験的に理解を図る学習、繰り返し学習を計画的に実施する。
- (2) 実生活とのかかわりのある学習課題を積極的に取り入れる。
 - ・ 学んだ知識・技能が実生活の中で広く用いることができるものであることを実感できる活動

2 「授業づくりガイドブック」を活用した思考力・判断力・表現力等の育成

- (1) 問題能力向上のための5つのプロセスを意識した授業を行う。
- (2) 実社会や実生活に関連した課題の設定を行う。
 - ・ 見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びの実現

3 総合的な学習の時間、体験学習の充実

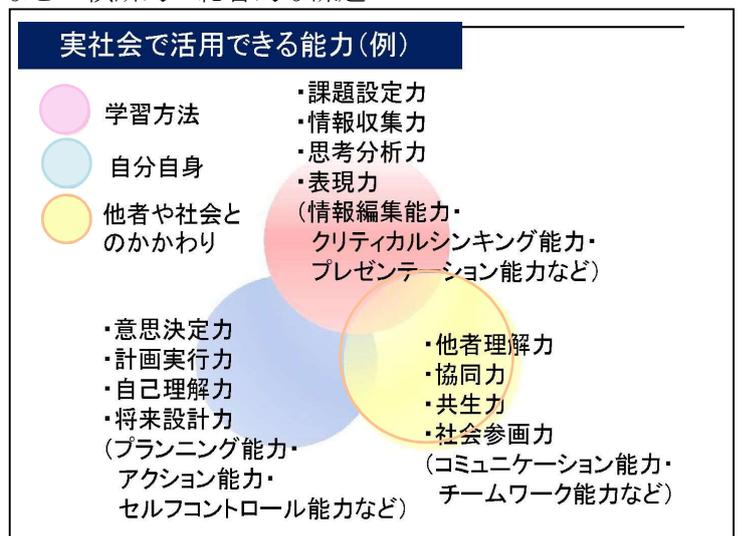
(1) 育てたい力やねらいを明確化にして全体計画を作成する。

- ① 目標の実現のためにふさわしい学習課題を実生活、実社会の中から見つける。
教科横断的、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくような教育的に価値のある諸課題
<例>・ 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題
・ 子どもの興味・関心に基づく課題

- ② 育てようとする資質や能力を明確にする。
 - ・ 各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の2つにより、総合的な学習の時間の教育活動を通して「どんな子どもを育てたいか」を明示する。

(2) 主体的・協働的に課題の解決に取り組む。

- ① 問題の焦点化
 - ② グループ活動への支援
- (3) 学習したことを表現したり、振り返ったりする活動を位置づける。
- ① 自分の言葉で表現する活動
 - ② 社会に発信して提案するような活動 など



4 係活動、委員会活動などの日常的な活動の中で、学んだことを意図的に活用する機会を設ける。

(1) 算数や理科に関する活動の充実を図る。(例)

- 統計を取り、割合やグラフを使ってまとめたり、発表したりする活動を取り入れる。
(電卓を使って割合を求めさせると、四捨五入の学習にもなる。)
- ・ 学年ごとの図書貸し出し数について、割合を使ってまとめる。
- ・ 毎日の天気調べを行い、天気記号を使って表す。(週の晴天率を求める)

(2) 校内放送、朝の会・帰りの会等を活用して、言語活動の充実を図る。(例)

- ことわざ、四字熟語、故事成語を使ったクイズや1分間スピーチに取り組む。
- 放送委員会がインタビュー活動を行い、まとめたものを校内放送で紹介する。